



Victor · JVC

The Perfect Experience



TVF 2009

*An International Video Contest
for the People Around the World*

第31回東京ビデオフェスティバル

TVF2009レポート

CONTENTS

TVF2009開催	P2
入賞作品の特徴と話題	P5
優秀作品賞30作品	P8
佳作70作品	P12
審査委員総評	P14
TVF2008の主な活動	P18
国内応募作品一覧	P20



主催：日本ビクター株式会社
後援：横浜市開港150周年・創造都市事業本部
協力：ランドマークホール

横濱開港150周年



世界中のビデオファンが集う、世界最大の市民映像祭
第31回東京ビデオフェスティバル

TVF2009

An International Video Contest
for the People Around the World

開催

後援：横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部 協力：ランドマークホール

作品募集

6/20(金) ~ 9/30(火)

昨年の6/20~9/30までの募集
期間に世界中から2,231点もの
作品が寄せられました。



入賞作品 WEB 配信 & ピープル賞投票

1/21(水) ~ 2/20(金)



1/21より、TVF2009入賞100作品の
WEBによるストリーミング配信を開
始。同時に一般の方々の投票により選
出される「ピープル賞」のWEB投票を
実施いたしました。

TVF2009 入賞100作品上映会

2/21(土) ~ 2/25(水)

入賞作品全てを「自己・家族」、「地域・社会・生活」、「教育関連」、
「創作・表現技術」の4つのカテゴリーに分けてビクター新橋ビルで
プログラム上映会。5日間の開催期間中に多くの方々が来場され、
作者との直接的な交流や様々な入賞作品を鑑賞されました。



たくさんの方々に来場していただき、作者との情報交換も興味深い内容でした。

第31回東京ビデオフェスティバル

ビデオ大賞

『Melanie-Ich gehe meinen Weg
(メラニー -自分の道をゆく-)』
Klaus Fleischmannさん(ドイツ)

優秀

30作品

日本ビクター大賞

『共に行く道』
内田リツ子さん(千葉県)

佳

70作品



東京ビデオフェスティバルについて

日本ビクターが主催するプロ、アマ、個人、団体、国籍等を問わず、誰もが参加できるオープンで国際的な市民映像祭。ビデオ映像によるメッセージの伝達や映像表現の可能性を広げるとともに、映像文化の発展や普及・振興を目的として、1978年にスタートし、今年のTVF2009で31回を数えます。その間に世界110の国と地域から52,517本にも上る応募作品が寄せられました。

世界の54の国と地域から2,231作品(国内760、海外1,471)が寄せられた第31回東京ビデオフェスティバル「TVF2009」をビクター新橋ビルと横浜ランドマークホールで開催しました。応募者の方はもちろん、ご支援をいただきました



方々に心よりお礼を申し上げます。2月21日の「入賞100作品上映会」から3月1日の「発表・表彰

式」までの間を『TVF2009ウィーク』と題した開催期間中には、世界中からの熱心なビデオファンが会場に集いました。そして、31年にわたるTVFの閉幕については、市民による映像文化の発展に寄与してきたTVFに対する賞賛の声とともに、新しい何かを求める市民の熱い期待が寄せられ、TVFのフィナーレにふさわしい会となりました。

世界中のビデオファンに支え続けていただいた東京ビデオフェスティバルは、今回の第31回目を持ちまして、その活動に幕を降ろすこととなりました。長年に渡りご支援いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

TVF2009 in YOKOHAMA

入賞作品セレクション上映会

2/28(土)

TVF2009受賞作品

作品賞

ピープル賞

を選出

『Sin Decir Nada(何も言わずに)』

Diana Carolina Montenegro Garciaさん(コロンビア)

作

『封心鎖(心の鍵)』

Chung Wai Kitさん(香港)

を選出

『12.7%』

長野県梓川高等学校放送部(長野県)



作品の良さがわかる
審査委員の解説。



小林はくどう氏



佐藤 博昭氏

審査委員の小林はくどう氏、佐藤博昭氏の両名が「市民ビデオにおける自己の内面表現」、「市民ジャーナリズムから映像教育まで」というテーマのもと、独自の視点で選んだ入賞作品を上映し、作品制作のヒントにもなる解説を加えたセレクション上映会を実施しました。

TVF2009 in YOKOHAMA

入賞者を囲んだ交流会

2/28(土)

発表・表彰式 3月1日(日)

セレクション上映会の後には、翌日に控えた「発表・表彰式」の前夜祭として、入賞者交流会を開催。交流会は参加された入賞者の方々を一人ひとり紹介し、羽仁進審査委員の乾杯でスタート。入賞者同士の親交や審査委員との作品談義など、和やかな雰囲気の中で多くの人の輪ができていました。

最後のTVFということもあり、180名にも上る入賞者の方々が集い、その熱い思いにより例年以上に盛況で記憶に残る交流会となりました。



入賞者同士の積極的な
会話でにぎやかな交流会。

大賞作品発表・表彰

TVF2009を象徴し、最も優れた作品として「ビデオ大賞」、「日本ビクター大賞」を発表、表彰しました。

「ビデオ大賞」には、盲目の少女の自立していく姿を描いた『メラニー -自分の道をゆく-』、「日本ビクター大賞」には老夫婦の介護生活を暖かく表現した『共に行く道』のそれぞれが表彰され、トロフィーが贈られました。ステージ上の作者への称賛に会場が包まれました。



ビデオ大賞

「Melanie-Ich gehe meinen Weg
(メラニー -自分の道をゆく-)」
Klaus Fleischmann さん(ドイツ)

作者・クラウド フライシュマンさんは、「私と妻の2台のカメラで記録した作品です。この受賞は、目の見えない方たちに勇気を与えることができたと思います。ありがとうございます」とご夫妻で喜びを表わしていました。

羽仁 進 審査委員は「勇気づけられた作品です。メラニーは自分が見えてない世界を、実世界以上に広げていけるんじゃないか。いろいろ克服しなければならない問題があるのかもしれませんが、明るく元気に生きていけるのは素晴らしいと思います」。また、佐藤博昭審査委員は「凄いと書いたのは、街を1人で歩くための試験がある。それに合格するための努力をして、自分の生きる道を獲得していくシステムがあるのは進んだ社会だと思いました」と、障害者が自立していける社会のシステムに感銘をうけていました。

なお、作者のクラウド フライシュマンさんには、賞金50万円と副賞としてビデオカメラが贈呈されました。



日本ビクター大賞

『共に行く道』
内田リツ子さん(千葉県)

作者・内田リツ子さんは、「ホントかなという気持ちです。主人に入賞したといたら“良かったね”とってくれました。ビデオの魅力は、難しくて面白いところですね」と喜びを述べていました。

羽仁 進 審査委員は「カットの挿入が実にうまいんですよ」。椎名誠 審査委員は「涙と笑いがある名作だと思います」。そして、北見雅則審査委員も「老老介護という、とてもシリアスな問題をコミカルに楽しく伝えた内田さんは天才だと思います」と締めくくりました。

なお、作者の内田さんには、賞金40万円と副賞としてビデオカメラが贈呈されました。

『Sin Decir Nada』(何も言わずに)
Diana Carolina Montenegro García さん

・視聴者からのコメント

「素晴らしい作品です。彼女は天才です。良い脚本、良い展開、良い女優たち、良いメッセージ。抽象的ではなく退屈しません」

『封心鎖』(心の鍵)
Chung Wai Kit さん

・視聴者からのコメント

「優れた作品です。愛、サスペンス、笑い、心に訴える作品が観たい時は、この映画をぜひ観るべきです」

『12.7%』
長野県梓川高等学校放送部

・視聴者からのコメント

「高校生がこういう取り組みをすることはいいことだなと思いました。私も憲法について少し関心を持つことができました」

入賞作品表彰

羽仁 進 審査委員の司会・進行で「佳作」70作品、「優秀作品賞」30作品を発表、表彰。入賞された方は、ステージ上で各審査委員から表彰されるとともに、喜びの言葉や制作時のエピソード等をスピーチし、会場から暖かい拍手で称えられました。



審査委員とともに大勢の来場者が入賞者を祝福。

第31回東京ビデオフェスティバル 発表・表彰式



ピープル賞

インターネットでの投票で「ピープル賞」(3作品)が選出されます。今年は次の3作品に決定いたしました。ピープル賞の受賞者には、楯が贈られました。



レセプション

発表・表彰式後には、審査委員と受賞者、ご来場いただいたビデオファンが思い思いに語り合えるレセプションパーティが催されました。年齢、性別、国籍が異なる様々な方々がビデオ映像という共通言語を通して交流し、歓談の輪や記念撮影をされるシーンが見られました。そして、参加され方々は親睦を深めた入賞者、TVFへの別れを惜しみながらも再会を約束し合い、閉会となりました。



審査委員や他の入賞者との歓談のひとつ。

TVF2009 in YOKOHAMA

3 / 1 (日)



家族への愛が作品に投影

日本ビクター大賞に輝いたのは『**共に行く道**』。羽仁進審査委員は「実に素晴らしい不思議なユーモアというのを知りました」。小林はくどう審査委員も「この作品には表現の工夫があり、ユーモアを交えて重いテーマを扱っています」。北見雅則審査委員も「老老介護というシリアスなテーマをコミカルにユーモアあふれる作品にしたのは素晴らしい」と高く評価しました。

これを受けて作者の内田さんは「携帯電話も満足に使えない私が、こんな大きな賞をいただいているのかなと思います。今回、私は自分も持っているものを全部出し切ろうと思ってつくりました」と思いを語りました。作品は、ともに80歳を超えた夫婦の「老老介護」の生活を、妻が丁寧に、そして気負うことなく記録した作品。夫婦二人で紅白歌合戦をするシーンでは、「涙と笑いが同時に溢れました。ここ数年で最高の作品と思いました」と、審査委員の椎名誠氏が絶賛する傑作です。65年ぶりに故郷を訪れた

東京ビデオフェスティバル 2009 入賞作品の特徴と話題

人間の生き様に 尽きせぬ思いをこめて

TVF最後のビデオ大賞に選ばれた『**Melanie-Ich gehe meinen Weg** (メラニー ー自分の道をゆくー)』は、一人の少女が豊かな感受性と確かな行動力で、盲目というハンディキャップを明るく前向きに乗り越えていく姿を、温かいまなざしで描いた作品です。審査委員の羽仁進氏は「勇気付けられる作品。いろいろ苦労はあると思いますが、あんなにも明るくのびのびと振舞えるのはすばらしい」と感動を語りました。また、高畑勲審査委員も「親や友だち、町の人たちと体が不自由な人が自然に付き合っていく構図が社会としてできあがっている。進んだ社会だなと思いました」。この大賞作品を筆頭に、今回も人の生き様にカメラを向けた“人間ドキュメント”が多数入賞しています。

乳がんで乳房を切除した女性に、失った髪が生え始め、初めて自毛をカットするまでを追った『**自毛デビュー**』(加藤秀樹・埼玉県/優秀作品賞)には、「かなり厳しいお話を、たんたんと作品にした感動的な内容です」と椎名誠審査委員。蚕からすべて手作業で絹をつむぎ、染め、織り上げる、日本の伝統的な養蚕と絹織物を一人で蘇らせたカナダ人を紹介した『**蚕道を極める**』(藤井喜郎・神奈川県/優秀作品賞)には、「今では日本では使われない、民族資料館に置いてあるような昔の古い道具を使う日本の記憶を撮り続けたすばらしい作品」とは高畑勲審査委員。さらに、自分を変えたいと、耳の聞こえない大学の友人をビデオに撮るうちに、明るく振舞う友人の本当の心の内に気づいていく

『**クラリネットボルカ**』(浅日香苗・滋賀県/優秀作品賞)に対しても、「インタビューし作品にしたからこそ、生き生きしている彼女に孤独な問題があることがわかった」と映像作品づくりに秘められた力を述べました。



母親の様子を、娘からの視線で綴った『**遥かなる故郷**』(石渡恵子・千葉県/優秀作品賞)に、



椎名誠氏



大林宣彦氏

大林宣彦審査委員は「映像に写らない心の中まで見えてしまう作品。個人的な愛情の物語ですが、見るものにとっては普遍的な愛情物語を見た」と感想を述べました。若い頃から距離を置いていた父を失った後、その存在の大きさを知った父への屈折した思いを、憤りを込めて映像にした『父との遠くて近い距離』（新堂順一・大阪府/優秀作品賞）に小林はくどう審査委員は「テロップで心の中の切なさを感じ取れた作品。写真を燃やすシーンでは、父をなくした悔しさが感じられました」。出稼ぎに行った両親を待ち続ける幼い姉弟を主人公に、家族の思いを描いた中国作品『紅紙船（赤い紙船）』（Li jun cheng・中国/優秀作品賞）の作者は「表現したいものは心です。人類は発達して進歩しているけれど、人間関係は離れてること表現。親と子、隣人、人間と人間の距離感を縮めたい」とテーマを説明しました。

ビデオでイキイキ！ 充実のシニアライフ

高齢化が進み、社会的にさまざまな問題が起きている一方で、自由な時間を有効活用して充実のシニアライフをエンジョイしている作品も入賞しています。

71歳の元教師が、子どもの頃からの夢だった南極旅行を実現した旅紀行『夢に挑戦～地球最大の秘境・南極～』（有沢準一・北海道/佳作）、エベレスト登頂に挑戦した中高年登山家たちの姿を69歳の女性が記録した『じいちゃんはエベレストに』（舟橋栄子・東京都/佳作）、77歳の作者が、町医者と協力してX線撮影のカラー化に成功するという、とぼけた味のユーモアドラマ『天然色～町医者が大病院建設～』（青柳完治・群馬県/佳作）。また、72歳の男性が、思わぬ大病にかかり死を覚悟した闘病生活の記録と、退院後に僧侶から諭され元気を回復するまでを描いた『とことん元気で』（松田治三・広島県/佳作）など、年輪を重ねた人生のベテランならではの力作が揃いました。

動かぬ事実の映像記録。 ドキュメンタリーに秀作多数

社会的・歴史的なテーマをはらんだ活動や場所、そこでの人間の営みを記録し問いかける作品も多数入賞しました。

日本の稲作の本来の姿を求めて、独自農法の研究・普及を進める活動を追った『本来の稲作 NPO法人民間稲作研究所の探究』（浅野光彦・茨城県/優秀作品賞）。「汚染米の問題もあり、タイムリーな取り組みを記録」と小林はくどう審査委員。また、山村の小学校の全校行事「炭焼き」の一部始終を記録した『ええのができるぜえ～』（岡野鏡子・愛媛県/優秀作品賞）には高畑 勲 審査委員が「炭焼きを全部取るというのも意義があるし、子供が少ない地域で、みんなでうまくやっているというのがよくわかった」。他にも、150年の歴史がある茅葺き屋根の再生を、若い職人が伝統技術を受け継ぎ5ヵ月をかけ

てやり遂げた記録『茅葺き屋根再生』（岡本泰宏・兵庫県/佳作）をはじめ、四川大地震に駆けつけた大学生6人が見た惨状と救助活動の記録『迎風飘扬（風にはためく）』（Zhou Shilun・中国/佳作）、北京五輪を誇り高く迎え、意気上がる下町の人々を描いた『虹橋弄的奥林匹克（虹橋横丁のオリンピック）』（Shan Zuolong・中国/佳作）などが入賞しました。



小林はくどう氏

「ドキュメンタリーでありながら非常に美しい。一人ひとりの余情がつくった作品」と大林宣彦審査委員が高く評価したのは、イラク戦争などで命を落とした兵士を埋葬する米アーリントン国立墓地に訪れる家族らへのインタビューを中心に記録した『Section 60: Arlington National Cemetery（セクション60:アーリントン国立墓地）』（Downtown Community Television Center・アメリカ/優秀作品賞）です。



佐藤博昭氏

高まるドラマ熱。 入賞作品の4分の1を占める

ドラマ作品が多数入賞し、全体の約4分の1を占めたことも目立ちました。

レジ袋廃止をモチーフに、好奇心いっぱいの少女が主人公を演じる物語で、環境問題の急速な展開を暗示した『觸點（接点）』（Gao Shuai・中国）。作者は「私の作品に対する評価は、環境問題に対して評価をいただいたのだと思います」とコメント。孤独な老人の悲しいいたづらを筋立てに、現代社会に潜む孤立感を描いた『封心鎖（心の鍵）』（Chung Wai Kit・香港/優秀作品





賞・ピープル賞)には、佐藤博昭審査委員が「シナリオがよくできている。複雑な構造なんですけど、ストーリーテリングが上手い」。他にも、厳格なしつけを強いる父親と娘とのゆがんだ関係が、どんでん返しで明らかになるホラー作品『**愛瑪的晚宴(エマの晩餐)**』(Chuang Ching-Shen・台湾)など、アジア勢から5本が優秀作品賞を獲得。女子校生二人の密やかな思いを、若者らしい感性で美しく描いた『**Sin Decir Nada(何も言わずに)**』(Diana Carolina Montenegro García・コロンビア/優秀作品賞・ピープル賞)。空から次々に落ちてくる男たちが繰り広げる不思議な空想ドラマ『**nenn mich einfach TOBI B.(トビーBと呼んでくれ)**』(Felix Stienz・ドイツ)も優秀作品賞に選ばれました。



羽仁進氏

アートにアニメに 若い世代の力作揃う

このジャンルでは、特に若い世代の活躍が目立ちました。

3つの風景の記憶から実写映像を加工して一冊の写真集のように編集、不思議な映像空間を創造した『**記憶全景**』(横田将士・25歳・埼玉県/優秀作品賞)に羽仁進審査委員は「都会がまだまだ平面的な世界に見えて面白かった」とコメント。さまざまな合成映像のコラージュと効果音で日常感覚の憂鬱と発散を描き出した『**はじまりはまつ毛の先から**』(乗田朋子・23歳・山形県/佳作)、死への誘いの甘美な歌に導かれて天に昇る魂を表現した『**laid in earth**』(薩摩浩子・21歳・神奈川県/佳作)、現代の都市化現象をテーマに、経済成長とその裏にあるものを対比させた『**城“式”化(都市“型”化)**』(Yu Kai・24歳・中国/佳作)など、若い人の秀作です。

アニメでは、都市伝説上の怪人をテーマに、アナログ手法で作り上げたミュージッククリップ『**頭に戻るは笑い声**』(高嶋友也+古都・学生・東京

都/佳作)、擬人化した数字のキャラクターによって格差社会を描いた『**ステイタス**』(新海岳人・26歳・東京都/佳作)、退屈な会議中に落書きしたイラストや会議資料の文字が、紙から飛び出して走り回る愉快なショートアニメ『**とりっくわーど**』(New-Days・学生・東京都/佳作)など。アート、アニメとも大学生や20代の力作が入賞作品の大部分を占めました。



高畑 勲氏

クラブ活動、 自由研究にビデオが大活躍

今回の入賞作品の中にも小・中・高校のそんな優れた活動成果が見られました。

新聞で自校生徒たちの通学電車の利用マナーが悪いと報道され、これに疑問を抱き、駅員や乗客の証言を聞き、新聞社に逆取材して真相を究明していく『**高校生は乗車を妨げたのか**』(北海道深川東高等学校放送局・北海道/優秀作品賞)。長野県の高校放送部が、自校の“憲法”制定を機会に、校内で日本国憲法に関する

知識の認知度を調査したところ、正解率は生徒が12.7%、憲法認識の問題点をユーモアたっぷり



北見 雅則氏

に浮き彫りにした『**12.7%**』(長野県梓川高等学校放送部・長野県/優秀作品賞・ピープル賞)について、「憲法の本質にかかわることが扱われていることがすごい。自分たちの権利について知らせてくれたことに感謝します」とは高畑勲審査委員。兵庫県の中学校・生物理科研究班が、棚田に生息するタガメの生態を丁寧に記録した『**タガメー飼育と観察をとおしてー**』(姫路市立菅野中学校生物・理科研究班・兵庫県/優秀作品賞)には「タガメが元気であるということは、豊かな自然があり、私たち人間が幸せに暮らせることです」と大林宣彦審査委員。札幌市の小学校の生徒達が日本の観光名所の「三大がっかり」のひとつといわれた札幌時計台について、多面的に取材し、レポートした『**我が町自慢町のシンボル時計台**』(札幌市立北都小学校・北海道/佳作)などが、学校における作品の代表作です。



ビデオ
大賞



Melanie - Ich gehe meinen Weg メラニー - 自分の道をゆく -

Klaus Fleischmann (57歳・ドイツ)

19分00秒 | ドキュメンタリー

盲目の少女・メラニーが、高校卒業を目前に自立して自分自身の道を歩む姿を描いたドキュメンタリー。目が見えなくても小さな頃から何にでも活発に挑戦、ミュージカルもピアノも。周囲の人たちに支えられ将来は社会福祉の道に進もうと希望に燃えている。

主人公の少女の豊かな感受性、確かな行動力など、ユニークな個性がみごとに描かれている。しかし、この作品はそれだけで終わらない。彼女のまわりの社会が、盲目の人間をいかに処遇するか。ゆったりと、しかし、ある心配りをいつも持って…。その関係がごく自然に感じられるところに、心から感動した。(羽仁)

日本ビクター
大賞



共に行く道

内田 リツ子 (80歳・千葉県)

18分55秒 | ドキュメンタリー

80歳を越した老夫婦が日常生活から介護の現状や家族の大切さを考えるドキュメンタリー。「要介護4」の夫を介護する妻が、自らの負担や介護サービスの実態、好きなカラオケを楽しむ夫の姿を通じて老老介護の現実を描き出し、最後は夫婦の絆と実感する。

淡々とした作り方ですが、深いヒューマニズムが作品の底に常に流れていて、さりげない作りのわりには映像づくりと構成がキメ細かく上手で見事な作品です。夫婦二人が紅白歌合戦をやるところでは涙と笑いが同時に溢れました。ここ数年で最高の作品と思いました。(椎名)



Section 60: Arlington National Cemetery セクション60：アーリントン国立墓地

Downtown Community
Television Center (アメリカ)

20分00秒 | ドキュメンタリー

イラクやアフガン戦争で命を落した軍人が埋葬されるアーリントン墓地のある日を描いたドキュメンタリー。米国で“最も悲しい場所”であり、“神聖なる場所”でもあるこの墓地を訪れる家族・友人は絶えることはない。

かつてのビデオ大国アメリカ市民は、2001.9.11に“絶句”した。今年はこの作品が一本。国のために誇らしく死んだ若者たちを称える作り方に反して遺族の語る言葉は国の犠牲になって殺された家族の悲しみばかり。美し過ぎる映像が意図的な演出であるなら、作者たちはマスコミ・テレビ報道の欺瞞をこそ描いたのか!?(大林)

自毛デビュー

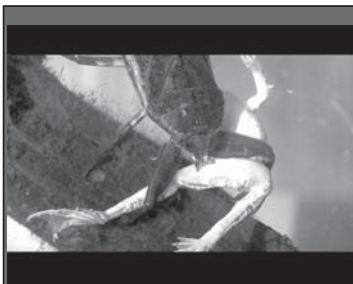
加藤 秀樹 (48歳・埼玉県)

8分40秒 | ドキュメンタリー

乳がんで乳房を切除した女性に失った髪が生えはじめ、初めて自毛をカットする迄を追ったドキュメント。「がんばるね」が口ぐせの彼女は、会社に内緒で治療を続ける。抗がん剤投与や手術など病に立ち向かう彼女の勇気ある生き方を克明に記録。



不思議に軽やかに、この感動的な記録を描き出している作家の手腕に敬服した。その調子の裏に、深い、そして重い愛がある。主人公は、その愛に包まれているからこそ、こんなに悠々と行動出来るのだろう。僕は個人的にこの作品をビクター・グランプリに推していた。(羽仁)



タガメ - 飼育と観察をとおして -

姫路市立菅野中学校
生物・理科研究班 (兵庫県)

9分50秒 | ドキュメンタリー

中学校の生物・理科研究班が棚田に生息するタガメを観察・研究したドキュメンタリー。中学生が水中の生活に適したタガメの飼育と観察を1年間かけて丁寧に記録。棚田の自然保護やタガメの生態についても調べていく。

かつて日本の野や山にいっぱいいたぼくらの生き物仲間たち。忘れていてごめんね。やあまだいてくれたんだ、元気だったんだ。君たちが元気にしっかり生きている姿から、ぼくらは色々なことを遊びながら、楽しく学んだものだった。またこれからも教えてね。ぼくら人間もしっかり学んで、上手に賢く美しく生きていくから。(大林)

本来の稲作 NPO 法人民間稲作研究所の探究

浅野 光彦 (62歳・茨城県)

19分58秒 | ドキュメンタリー

食の安全が問われている日本の稲作の本来の姿を求めて、民間稲作研究所の稲葉氏の活動を追いかけるドキュメンタリー。農業や化学肥料の使用の功罪から日本の農業の歴史や経営の実態までを解明していく。アジアへの共同普及のための日中韓の国際技術交流も描く。



稲作は本来、食料としての米、縄など生活用具としての藁、燃えた灰は肥料となるアジア人の考案した自然界のリサイクル文化であった。近代文明への疑問と汚染米事件など食の安全が求められている昨今、稲葉氏の雑草が生えない実証的な稲作法を淡々と描いていて、興味深い。田圃が生き物の宝庫であることを再確認した。(小林)



Minoucosmos
子猫の宇宙

Alain Boyer (61歳・フランス)
5分00秒 ドラマ

庭にいる虫たちの発する音に邪魔されて眠れない猫の物語。猫が寝そべっている庭にはダンゴムシ、アリ、ケムシ、クモ、チョウなど色々な虫が活動する物音が溢れている。猫を主人公にして虫たちの活動に効果的な音をつけて表現している。

いかにもフランスっぽいしゃれた冗談感覚を誰もが楽しめる超短編に仕上げました。昆虫の動作に効果音をつけたのが成功しています。(椎名)



Under construction
建設中

Zhenchen Liu (31歳・フランス)
9分55秒 アート

上海の住宅破壊の実態と都市開発の様子を3次元と2次元映像で構成したアートのドキュメンタリー。廃墟となり瓦礫の山となった住宅地を静止画像とCGの合成技術で緻密にリアルに描写している。

緻密に再現されたおびただしい瓦礫を潜り抜けていく廃墟の風景は大変興味深い。撮り込んだ画像の正面性のせいかCGとの合成も薄っぺらさが実に奇妙だ。鳥の群れ、横切る人の姿が垣間見え、リアルな演出が効果的だ。被害者の取材で上海の再開発とわかり、西欧の都市づくりとは明らかに違うという強い主張が伝わってくる。(小林)

ビープル賞



封心鎖 心の鍵

Chung Wai Kit (27歳・香港)
20分00秒 ドラマ

近所のマンションで起きた鍵穴を接着剤でふさぐ事件の真相に触れ、自分を見つめ直すことになる主人公・アチの物語。警察官を夢見ながら鍵前屋で働くアチは、妻との結婚生活を立て直そうとしながら、近所で起こった鍵穴事件の真相を探り始める。

短編ストーリーは年々レベルを上げてきているが、この作品はテーマの捉え方が優れている。孤独な老人たちのいたづらが、現代の社会を照射していて愉快であり、少し悲しい。実は孤独なのは老人だけではなく、主人公たちのような都市部で暮らす夫婦でもある。映像の手法は堅実で力がある。(佐藤)



逝 去りゆく時

So Ho Fai (29歳・香港)
19分53秒 ドラマ

思い・愛・時間の関係のものを描いたドラマ。写真好きの女(チョウ)と勧誘の男(ロイ)が出会う恋愛を軸に、アラバスクのように絡み合いながら、時間を越えてノンストップで巡る。

20代の若い人の作品がわっと増えたのは小型のデジタル機器で作られた作品がそのまま世界の映像世界を制覇し得る時代の反映でもあり、彼らが生み出す映像世界は未来の豊かさを予感させる。この映像劇の伝え方は、脚本、カメラワーク、演出を通じて、登場人物のコミュニケーションのありように一つの新しい劇を生んでいる。(大林)



蚕道を極める

藤井 喜郎 (70歳・神奈川県)
16分10秒 ドキュメンタリー

山奥で養蚕に取り組むカナダ人のひたむきな生き方を紹介したドキュメンタリー。農家の主婦が糸を探り着物を織る姿に感動した彼は、蚕から育てて交配し、絹織物の藍染の染料までもこごわりで自作する。外国人が伝える日本の伝統文化の物語。

茶畑に囲まれた山里。そこに昔どおり桑の木を植え、いまや資料館の片隅に、どう使うのかわからないまま転がっているだけの道具類を見事に修復再生して、蚕を飼うところから糸紡ぎ、縫り、藍づくり、草木染め、機織りまで、伝統的な全工程をひとりで行ってのける。それがなんと、カナダ人。おだやかでゆとりのあるその顔、手つき。からくり仕掛けのような糸車が回るのを見るだけでも、あらゆる思いが押し寄せる。必見。(高畑)



COCAIS, a cidade reinventada
コカイス - 再発見された町 -

Ines Cardoso (44歳・ブラジル)
15分00秒 ドキュメンタリー

ブラジル・サンパウロ州のある町の施設に勤務する者と施設の患者で作った詩的なドキュメンタリー。結婚式、食事会、映画会、ホールでのダンスパーティーなどの撮影を通して町のあり方や人権を考え、映画作りによって再発見された町の歴史を語る。

テーマと映像がたがいにしっかりからみあって、映像詩をつくりあげた。とくにカメラアングルと編集にトリハダのたつようなセンスのほとばしりを感じ深い感銘をうけました。(椎名)



遥かなる故郷

石渡 恵子 (58歳・千葉県)
8分49秒 ドキュメンタリー

65年ぶりに訪れた故郷での母の様子を娘のやさしい視線で綴るドキュメンタリー。年老いた母は故郷の北海道・北見の思い出の場所を訪れ、地元の人々に会うことで、当時を思い出し、生き生きとした表情をよみがえらせていく。家に戻っても笑顔の母がそこにあった。

極めて個人的な記録・記憶が、普遍的な意味で日本人の記録・記憶となる。痛みを伴いつつも美しい共感を呼び覚ます。幸福なコミュニケーションを手繰り寄せるジャーナリズム。失ったモノよりも、そこに留まる心を物語るこの作品に、穏やかな未来を願う。旅から帰った後の此処にある日常が何とも美しい。遥か、だが実在だ。(大林)



風をとって

鈴木 野々歩 (27歳・東京都)
19分56秒 ドキュメンタリー

「仕事について」「妻と外へ出かける」「風をとって」の3部構成の作品。携帯電話で撮った動画を35ミリの映写機で上映する。次に妻と出かけ風につけたカメラで上空から撮影、最後は家族全員でお祭りをした。

手作業によって何かを発見する面白さに貫かれている。携帯電話で撮影した映像を、PCを介して35ミリフィルムに仕立ててしまう。この手作業にまずは驚く。夫婦で出かけた公園では、凧にカメラを付けて上空から撮影する。魚眼レンズの映像は凧が揺れるたびに脈打つようで、「人のお腹のようだ」という。作品から絶えず「人」のありかを感じていた。(佐藤)



記憶全景

横田 将士 (25歳・埼玉県)

5分27秒 アニメーション

3つの風景の記憶から実写映像を一冊の写真集のように加工したアート作品。1つ目は広場で親子が楽しそうに遊ぶ風景、2つ目は家のドアから撮影した猫と人の風景、3つ目は階段を上がり家の屋上で見た景色という3つの場面で構成。

一枚の写真が動き出したかと思うと、立体的にこちらに迫ってくる。前作でも写真の集積で、時間を物量として見せてくれた作者が、不思議な映像体験を示してくれた。映像を見るということはこれだけの情報量を突きつけられているのだな、と感動してしまう。この作品も、呆れるほどの手作業の中で、驚きが発見される楽しさを伝えてくれる。(佐藤)



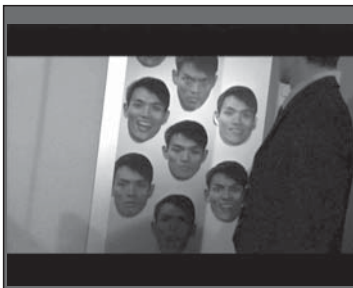
雲雀

黒河 貫 (70歳・愛媛県)

13分27秒 ドキュメンタリー

雲雀の子育てが地域の人々に守られ、雛が成長し巣立っていく様子を記録したドキュメンタリー。作者は雲雀の巣から鶯やカラスの群れを追い払い、臨時駐車場整地のための除草剤散布や草刈りからも守ろうとする。そこには地域の人々のあたたかい心があった。

生物の数が減っている日本では、せつかくの記録が、孤立しているその生きものを描くだけに終ることも多い。ところが、この作者は、雲雀の巣作りする草原が、駐車場に早変わりする機会に、人間と小鳥達との微妙な接触をみごとに捉えた。そこにこの作品の深さが生れた。素晴らしい作品だと思う。(羽仁)



變臉 変化

Wong Wai-kit (香港)

7分00秒 ドラマ

周りの人に合わせて自分を見失ってしまった主人公が、本当の自分を見つけようと問いかける中国の古典劇にヒントを得たドラマ。通勤電車やオフィスの中でも周りは常に主人公と同じく、仮面を被った人ばかり。自分は一体誰なのか。

むかし小説のなかでばくも同じことを考えました。社会の人が仮面をつけて街や会社に行く、という設定です。それを見事に映像にしました。楽しく不気味。うまいエスプリです。(椎名)



紅紙船 赤い紙船

Li Jun cheng (23歳・中国)

15分22秒 ドラマ

出稼ぎに行った両親を待ち続ける幼い弟と姉の純真な心とお婆さんの優しい心遣いを描いた家族愛のドラマ。家を出た母から年末に電話があり2人はバス停まで行く。友達の親は帰ってきて姉の親は帰ってこない。2人は流れ星に願いを込めて帰りを待つ。

都会に出稼ぎに行く親、親の帰りを待ちわびる姉弟と祖母。50年前の日本農村のたたずまいとそこに生きた人々が見事にダブリ、引き込まれた。電話と旅行鞆が現代的なことに、ふっと我にかえる。夫婦で町に出るから、もっと子どもはつらい。叱られて、「悪い子になったら母ちゃんが帰ってくる」と弟が言う。子どもをよく捉えた劇作品。(高畑)



クラリネットポルカ

浅日 香苗 (19歳・滋賀県)

18分02秒 ドキュメンタリー

大学生で一人暮らしを始めた作者が自分を变えたいい気持ちから耳の間こえない友人・佳世を追いかけたドキュメンタリー。佳世とは撮影でいつも一緒だったが、ある時体調を崩して休んだ。作者は異変に気づかず、映像を見返し初めて大切なものの存在に気づいた。

耳が聞こえないのに、けなげに明るく生きる友人をカメラで追う。じつはそのステキな明るさに、違和感を覚えてもいた。そしてついに、明るさと表裏の、つらい心のうちを率直に語ってもらえるときがくる。その内容や人となり心が打つが、自己の成長のために撮る、という作者の動機やその心境の変化が枠組みをなす、学生らしい作品。(高畑)



ビーブル賞

Sin Decir Nada

何も言わずに

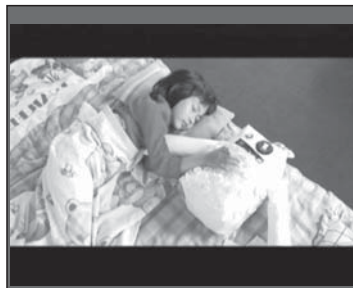
Diana Carolina Montenegro García

(23歳・コロンビア)

13分48秒 ドラマ

女子校で一番可愛いベロニカと彼女に思いを寄せるソフィアの二人の関係を描いたドラマ。密かにベロニカの写真を撮り続けるソフィア。ある時、そのことがクラスメートに知れわたり馬鹿にされる。しかしベロニカもソフィアを次第に意識しはじめていく。

生まれた時から日常的に映像機器が身近に存在する世代の若者たちは自らの目が自然に見るように映像を紡ぐ。それだけに見詰める対象への想いもまた独自に強く、見詰められた相手が時に奇蹟のように輝く。罪深く美しく、そしてさりげない。青春期の心の弾みを捉え描いて、ちょっぴりいけない扉を開いてみせて、かわいい。(大林)



觸點 接触点

Gao Shuai (25歳・中国)

10分26秒 ドラマ

環境保護のためのレジ袋廃止をモチーフにしたドラマ。女の子はビニールで人形を作り可愛がっていたが、レジ袋廃止の実施日がやって来て捨てられてしまう。変化は始まりに過ぎない、失ったものはまだ近くにあるのかもしれない……。

中国も急速にエコ改革が進んでいるようだ。急速に社会が変革し、レジ袋が子供の日から使えなくなる暗闇の不安をキーワードに、少女の心の中や、悪夢を描いている。少女の好奇心いっぱいの演技が光り、ゴミから可愛い人形を作り出す作業シーンや、悪夢のアニメーションが興味深い。急速な進化に対する問題提起と理解した。(小林)



父との遠くて近い距離

新堂 順一 (59歳・大阪府)

20分00秒 ドキュメンタリー

肺ガンと宣告された父の記録を3部で構成するドキュメンタリー。癌と知り病院をいくつも変えて最後まであきらめなかった父だが、次第に衰弱し余命1ヶ月と診断され遂に息を引き取った。昔は距離を置いていた父だが、失ってその存在の大きさを改めて知る。

父親とは何だろうか。世間では物分りのいい父親も息子には威圧的で、決して埋まることのない両者のギャップは昨年『最終章』にも通じる。次第に黒味のテロップが増えたのも寂しさが伴う省略の手法と解した。見所は父親の遺影に花火で火をつけたラストショットで、激しい憤り、悔しさの表現は愛の深さを感じる。(小林)



Denk mal - Mahn mal!
 考えて -そして忘れないで!

IKS Medienwerkstatt (ドイツ)
 13分00秒 ドキュメンタリー

ユダヤ人の大量虐殺で若い人達がドイツ・ナチスに迫害された事実を若者に伝えるドキュメンタリー。ヨーロッパのユダヤ人犠牲者を追悼するホロコースト記念碑には各国から多くの人が訪れる。中等教育の歴史科目の授業で取り上げられた様子も紹介する。

戦争虐殺からおよそ60年。記念日をモチーフにその1日の時間軸をインスタレーションにした映像だ。墓石の光と影による1日の造形を基軸に、人々の石を掴む行為の音の鎮魂歌、各国の礼拝者のメッセージ、戦没者のプロフィールなどの総合が極めて面白い。とかく説教になりがちだが、多面的に学ぶことが出来る映像作りの発想が素晴らしい。(小林)



高校生は乗車を妨げたのか

北海道深川東高等学校 放送局 (北海道)
 8分29秒 ドキュメンタリー

高校生のマナーが悪いため乗車できなかったというマスコミ報道の真相を検証するドキュメンタリー。高校生自身が駅員や乗客の証言を聞き、新聞社を調査した結果、取材不十分な記事化が判明。一方、高校生側の問題も追究し、ひとつの解決策を生みだしていく。

なかなかよく撮れている作品だ。営業利益だけに視線が片寄っていた日本の社会では、この電車一つでも、片側しかドアを開けていないという事が起った。それを高校生達(数も多い)に犯人を求めたインテリキ性が、誠実に、誇張なく、しっかりと捉えられている。(羽仁)

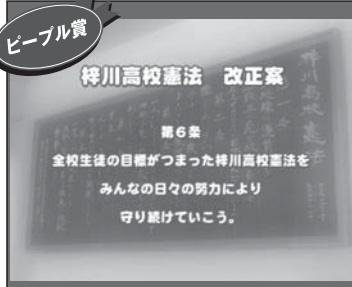


トラフィクト・チルドレン
 ~親に売られた子どもたち~

国境なき子どもたち (東京都)
 16分34秒 ドキュメンタリー

NGOのビデオワークショップに参加した子どもたちが自らの体験を元に再現した作品。人身売買された子どもたちは暴力で労働を強いられ、稼いだお金も奪い取られる。ようやく逃げ出しても、生きるためには自ら再び出稼ぎに放立ってしまう。

つらく苦しい体験をもつ子どもたちが、カンボジアからタイへ親に売られる子どもの話を再現ドラマ化し、売った親たちにもインタビューする。悲惨な現状を世界に知らしめるだけでなく、自分の過去を対象化して見つめ、作品制作に力を出し合うことで、その両方から子どもたちが生きる力を得るであろうと思わせる。素晴らしい試み。(高畑)



ビープル賞

梓川高校憲法 改正案

第6条
 全校生徒の目標がまった梓川高校憲法を
 みんなの日々の努力により
 守り続けていこう。

12.7%

長野県梓川高等学校 放送部 (長野県)
 11分08秒 ドキュメンタリー

長野県梓川高校の憲法制定を機に憲法について調べた活動のドキュメンタリー。学校憲法には先生も批判的。一方で日本憲法の特徴については正解率を調べたら一般は12.7%、先生は40%だった。その後、学校憲法は皆で不足部分を補い第6条を追加改定した。

この高校生の作品は、ユーモアたっぷりの調子で、実はそのなかに複雑な日本の社会の現実をしっかりと描きだしている。憲法がもともと持っていたのは、反独裁、反権力の性格だった。遅くスタートした日本の憲法では、そのことを多くの人が知らないままで、あいまいに過ぎてきた。みごとな指摘に拍手。(羽仁)



ええのができるぜえ~

岡野 鏡子 (63歳・愛媛県)
 9分57秒 ドキュメンタリー

全校生徒数20名の山奥の小学校で全員が実習を兼ねて毎年炭焼きをする全工程のドキュメンタリー。切り出した雑木を入れる窯の口作りや3日3晩当番制で火を燃やし続け貴重な体験をする子ども達。窯を閉じ10日間蒸焼きにすると真っ黒な炭が出来上がる。

生徒数20名の小学校生徒たちが総出で毎年炭焼きを手伝う。その個々の姿に迫って子どもたちが得たものをしっかりと捉えるというより、炭焼きそのものに感動した作者は、その全工程を克明に追うことに熱心だ。でもそのなかで子どもたちは作業を楽しげに行い、ナレーターに五年女子を起用して、佳品となった。(高畑)



愛瑪的晚宴
 エマの晩餐

Chuang Ching-Shen (35歳・台湾)
 19分55秒 ドラマ

厳格なしつけを強いる父親と娘エマとの歪んだ関係を描いたドラマ。父親の厳しい教育として完璧ともいえる少女に成長したエマは、18歳の誕生日パーティーに初めて書いた父親への手紙で真実を明らかにする。

このコンテストにはめずらしいあざといしかけのちりばめられたホラーで、生理的に嫌悪する人もいましたが、作品として見るべき、全体にうまい作品です。少し前のテレビスリラーなどに堂々と伍するプロ的完成度の作品です。(椎名)



My Big Happy Family
 私の大家族

Joey Steffens/
 Severijn Heijmans (20歳/21歳・オランダ)
 4分15秒 ドラマ

若い女性が友人とネット検索で実の父親を捜し出す。ジョーイは検索で見つけた父親ギルバートの家を訪ねて父と娘であることを確認。父の話から兄、お婆さん、義理の兄弟など大家族であることを知る。

オランダではこういう家族がたくさんいるのかな、と考えながら見ていた。それにしても主人公の女子学生は屈託がない。アフリカ出身の父親とドイツ人の母親、離婚した夫婦が再婚した相手、それぞれの子供たちは、何らかの繋がりのある大家族である。それを平然と受け止める彼女の姿が頼もしい。再現やフィクションもありそうだが、その家族像が楽しい作品。(佐藤)



nenn mich einfach TOBI B.
 トビーBと呼んでくれ

Felix Stienz (25歳・ドイツ)
 15分00秒 ドラマ

空から次々に落ちてくるトビーBと名乗る男たちが繰り広げる不思議な空想ドラマ。1人から2人、3人と空から降ってきた男は同じスーツを着て奇妙な行動をとる。若い女性も加えて、広い牧草地はカウンターパートに早変わり。トビーBがすべてを語る。

昨年の『店主』とは違う、不思議な空間を演出している。この作者は本当に器用で巧みだと思う。唐突に人間が空から落ちてきて、次々に同じような服を着た男が落ちてくる。最初に落ちてきた男以外は、みな、自分を「トビーB」と名乗る。死者の入り口である煉獄の描写なのだが、その絶妙な「変な空間」描写が見事である。(佐藤)



射光
佐竹 真紀 (28歳・北海道)
4分30秒 アート
祖父が残してくれた写真と当時の記憶をたどって再現したアート作品。懐かしい記憶が蘇る。



スイート ブリーズ
牧野 竜二 (24歳・北海道)
3分00秒 ドキュメンタリー
ネパール旅行を通して、作者がふるさと(日本)を見つめ直す作品。



夢に挑戦
～地球最大の秘境・南極～
有沢 準一 (71歳・北海道)
13分21秒 ドキュメンタリー
古希を機に子どもの頃からの夢であった南極大陸に挑戦。男のロマンが人生観を変えていく。



**我が町自慢
町のシンボル時計台**
札幌市立北都小学校 (北海道)
11分55秒 ドキュメンタリー
札幌のシンボル時計台の長い歴史や地元の人々の熱き思いを聞き、児童の目で問いかける。



はじまりはまつ毛の先から
乗田 朋子 (23歳・山形県)
3分10秒 アニメーション
まつ毛の先から1日が始まるというテーマを多様な映像コラージュで実験的に表現する。



るり子とさとし
市川 悠輔 (23歳・山形県)
16分00秒 ドラマ
1人の女性をめくり2人の若者が繰り広げるコミックタッチの恋愛ドラマ。



撮るという事 (総集編)
他人の事など知った事ではない話
池田 稔 (63歳・栃木県)
20分00秒 ドキュメンタリー
映画館の外観を撮影した作者と、規律違反とする管理者側とのトラブルの一部始終を描く。



天然色
～町医者が大病院建設～
青柳 完治 (77歳・群馬県)
7分37秒 ドラマ
X線撮影のカラー化に挑んだ町医者として協力した友人が繰り広げるユーモア溢れるドラマ。



歴史と共に生きる町
～ごちら亀の湯・本町一丁目～
よんぱんproject (埼玉県)
11分14秒 ドキュメンタリー
赤字で銭湯を閉じる店主と町の人々が歴史を振り返り、町の未来や可能性を語り合った。



青い未来を救え!!
板橋区立志村第二中学校
総合科学部 (東京都)
15分05秒 ドキュメンタリー
中学校の総合科学部で作った地球温暖化を救う「成金プロジェクト」の活動を紹介する。



頭に回るのは笑い声
高嶋 友也+古都 (東京都)
3分10秒 アニメーション
都市伝説上の怪人・赤マントをテーマにしたオリジナル曲によるミュージッククリップ。



ある日常の記憶
秦 俊子 (23歳・東京都)
3分38秒 アニメーション
サラリーマンがマンネリの生活から逃れ、今いる場所から飛び出そうとするクリエイティブアニメ。



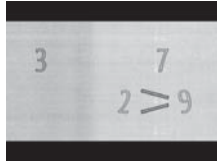
金の魚の目
草薙 勲 (35歳・東京都)
16分50秒 ドラマ
自分と真剣に向き合って答えを出すその瞬間の心の内面を描いたドラマ。



じいちゃんのエベレスト
舟橋 栄子 (69歳・東京都)
13分10秒 ドキュメンタリー
世界最高峰のエベレスト登頂に挑戦した中高年の登山家たちの姿と現地の貴重な映像記録。



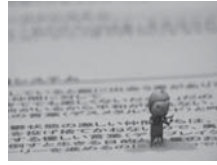
写真の少年
土谷 洋平 (24歳・東京都)
11分27秒 ドラマ
ひきこもりの兄のために小学生の弟・海斗が兄の希望する海の写真を撮りにいく。



ステイタス
新海 岳人 (26歳・東京都)
7分27秒 アニメーション
数字や記号を擬人化したキャラクターによって格差社会を描くアニメーション。



セイクロスさんとわたし
糸曾 賢志/亀淵 裕 (30歳/30歳・東京都)
14分04秒 ドラマ
トルコへ行った考古学者が石碑に刻まれた小さな文字を解読しようとする歴史ファンタジー。



とりつくわーど
New-Days (東京都)
3分50秒 アニメーション
退屈な会議中に書いた落書きの小さな人形が、文字と一緒に紙の上を走り回る。



ねがい
～まっすぐあなたのところに～
田中 稔也 (25歳・東京都)
19分29秒 ドキュメンタリー
不幸な動物をなくそうという動物愛護団体「動物生命尊重の会」の活動を追うドキュメンタリー。



不老長寿
緒方 篤 (東京都)
15分00秒 ドラマ
一人暮らしの老婆と不老長寿の薬を売りつける詐欺師が繰り広げる騙し合いの喜劇。



山形でゲリラ上映をした
新井 ちひろ/橋爪 明日香 (28歳/26歳・東京都)
13分20秒 ドキュメンタリー
国際映画祭のため山形に向かう道すがら、二人の女性は各地でゲリラ上映会を展開していく。



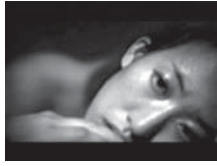
優勝のルーツ
佐藤 俊郎 (75歳・東京都)
9分53秒 ドキュメンタリー
卓球大会で優勝した孫娘の素質は何か、大きな成果を上げたルーツを探るドキュメンタリー。



レンズに瞳を
塚田 朋揮 (18歳・東京都)
10分36秒 ドラマ
常にカメラ目線の男は、彼女に目を向けず、会話もかみ合わないままデートを続ける。



14
木村 真紀子 (28歳・神奈川県)
10分50秒 ドキュメンタリー
28歳の作者が日々やり過ごしている生活を反芻し、今を生きようと揺れ動く心を描写する。



laid in earth
薩摩 浩子 (21歳・神奈川県)
2分17秒 アート
死への誘いの甘美な歌に導かれ、天に昇る魂を表現した実写とCGのアート作品。



お話の川
重田 佑介 (27歳・神奈川県)
6分30秒 アート
動きを使った新しい映像言語、物語を構築したアート作品。



塩見岳のアツモリソウ
御法川 直樹 (49歳・神奈川県)
11分05秒 ドキュメンタリー
アツモリソウの自生地、南アルプスの鹿の被害の深刻さを訴え、共に山の光景を描く。



祖国に
金子 豊一 (75歳・神奈川県)
13分51秒 ドキュメンタリー
韓国の安全責任者が災害撲滅のため日本の活動を学び、講演や現場指導に情熱を傾ける。



ひとりアトライブ
長岩 久美子 (19歳・神奈川県)
2分54秒 アート
リアルとバーチャルを組み合わせ、身体表現とCG技術を組み合わせたアート作品。



姫の卑屈な日常
勝又 悠 (27歳・神奈川県)
11分58秒 ドラマ
射的場に毎日現れる憧れの先輩に思いを寄せる姉妹の心の動きを描いたドラマ。



平和の肖像
金子 喜代子 (神奈川県)
12分05秒 ドキュメンタリー
生前の元気な笑顔や温泉旅行の思い出を集めて、60年間一人暮らしだった亡き母の半生を描く。



道
藤沢市立湘南台中学校 文芸部 (神奈川県)
7分00秒 ドキュメンタリー
進路選択に迷う中学生が「道」をテーマに自らの過去を振り返り次の一歩を踏み出す。



**豊の昔ばなし
「狐にばかされた若者の話」**
豊公民館 (福井県)
14分50秒 ドラマ
福井県の民話で若者が美しい娘に声をかけられて一晩中歩き回り、財布も土産も失ってしまう。



妙義 その葛藤
吉野 和彦 (47歳・長野県)
19分52秒 ドキュメンタリー
映像による妙義山ガイドを作った作者は、自分と家族を振り返り、「生」への執念を語る。



とも
松島 俊介 (24歳・岐阜県)
18分52秒 ドキュメンタリー
広島の港町を舞台に、風景と人間の関係を6つの視点から捉えたドキュメンタリー。



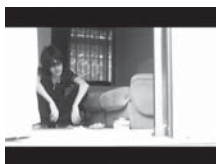
maktub
片野坂 亮 (21歳・滋賀県)
19分30秒 ドキュメンタリー
今という現実がイヤになって実家に帰り、友人との会話の中で自分を見つめ直す。



牙城
萩原 裕之 / 宮本 光男 (滋賀県)

19分55秒 ドラマ

外に出ず2人暮らしの若い男の生活を描き、愛をテーマに現代社会の悲惨さを表現する。



大団円
竹村 鐘 (21歳・京都府)

7分27秒 ドラマ

情性となった恋愛は何も生まないをテーマに、マンネリに悩む男と気にしない女の葛藤を描く。



理髪店にて
堀 皓二 (67歳・大阪府)

7分00秒 ドキュメンタリー

散髪屋でひげ剃りの間に思い出される亡き父母の幸せな人生。自分もそうありたいと願う。



えらいマニアに嫁いでしまった!!
大塚 静香 (21歳・兵庫県)

7分02秒 ドキュメンタリー

嫁いできた妻が発見した大量の三味線に驚き、夫の趣味を面白く興味深く紹介する。



茅葺屋根再生
岡本 泰宏 (60歳・兵庫県)

11分40秒 ドキュメンタリー

兵庫の旧家で茅葺屋根葺き替えの職人が自炊しながらも伝統技術に取り組み姿を追った。



とことん元気で
松田 治三 (72歳・広島県)

12分13秒 ドキュメンタリー

ある日突然、潰瘍性大腸炎にかかり死を覚悟した闘病生活の記録を自ら語るドキュメンタリー。



土石流列島日本
沖本 賢二 (73歳・広島県)

18分30秒 ドキュメンタリー

広島の高雨による土石流の恐ろしさや復旧過程を記録。治山治水は行政の問題だと警鐘。



神様たちのうちはつよい
萩尾 夫美子 (57歳・福岡県)

20分00秒 ドキュメンタリー

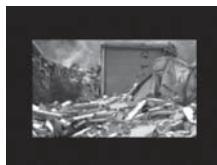
福岡・松末神社で行われる目隠し女相撲は笑いの渦で、力士も観衆も境内は一体となる。



あんもちどご汁はうまかばい
渡辺 千恵子 (61歳・熊本県)

9分40秒 ドキュメンタリー

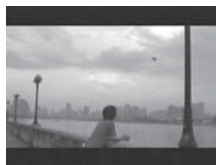
サツマイモを使った熊本の郷土料理を楽しむ料理教室を通じ若いお母さん達に伝えたい。



迎風飄揚
風にはためく
Zhou Shilun (23歳・中国)

12分55秒 ドキュメンタリー

四川大地震の被災地で大学生6人がボランティア活動した現地の惨状と救助活動の記録。



鷗・粵州故事
風・広州を訪ねて
Five Fly (中国)

12分00秒 ドラマ

著しい都市の発展の一方で今も残り続ける広州の伝統の風を思いをはせる作品。



虹橋弄の奥林匹克
虹橋横丁のオリンピック
Shan Zuolong (21歳・中国)

14分03秒 ドキュメンタリー

北京オリンピックは中国国民が共通の話題として祝い、虹橋横丁でも開幕式を自分たちのスタイルで祝った。



紅粉
化粧
Jin Huaqing (28歳・中国)

20分00秒 ドキュメンタリー

人手不足で興行が苦しい中国劇の劇団から遂に退団を決断した女性は新たな人生に旅立つ。



城“式”化
都市“型”化
Yu Kai (24歳・中国)

5分00秒 アート

現代の都市化現象をテーマに、経済成長とその裏側にあるものを対比させたアート作品。



Banana & Flower
バナナと花
Wong Wing Cheong (22歳・香港)

14分13秒 ドラマ

引越して来たばかりの少年が町で出会った女性警官に一目ぼれして追い求めている。



20 years-Just Video-ing my Children
(a video salad of my 3 sons +1)
我が子を撮り続けて20年ビデオが3人の息子+1
Kidlat Tahimik (66歳・フィリピン)

19分54秒 ドキュメンタリー

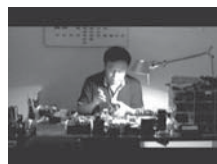
20年間に撮った映像記録を振り返り、進化してきた技術と成長した息子たちを考える。



Hard Boiled Eggs
ゆで卵
Wesley Leon Aroozoo (23歳・シンガポール)

15分00秒 ドラマ

博打好きで稼がない父親と娘達の物語を、モノクロ映像に様々な音声を組み合わせで描く。



KH1
ゆで卵
Kim Yoon (18歳・韓国)

13分00秒 ドラマ

カメラ修理に没頭する父と俳優志望で金がない息子。ある時父のカメラが突然消えた。



A Brighter Day
より明るい日
Wichanon Somumjarn (26歳・タイ)

16分52秒 ドラマ

タイの民主化運動の実話とドキュメンタリー映像を用いて真の民主主義を語る。



ROJO EN EL BOSQUE SANGRIENTO
赤い血にまみれた森
Tetsuo Lumiere (28歳・アルゼンチン)

4分00秒 アート

若い映画監督が何とか映画製作に取り組みたいとする姿を描く。ある電話で事態は急展開。



Primogénito Complexo
長男のコンプレックス
Lavinia Chianello/Tomas Creus (ブラジル)

11分25秒 アニメーション

長男と新生児の弟による兄弟の永遠の戦いを描いた詩的で幻想的なアニメーション。



Urbe
大都会
Marcos Pimentel (31歳・ブラジル)

15分00秒 ドキュメンタリー

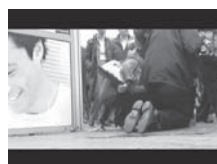
ブラジルのある町のルーツとそこに住む人々の心に焦点をあて、現代の大都会を見つめる。



Yurany
ユラニー
Ovidla Isabela Isaza (27歳・コロンビア)

9分34秒 ドラマ

幼い少女はキャンディー売りの貧しい生活だが希望を失わず心に夢を抱いて生きている。



a priori
大事なこと
Rob Jacobs (19歳・ベルギー)

1分00秒 ドキュメンタリー

欲しいものはたくさんあるが、与えたいものは答えに詰まる。多くの人にインタビューした1分間映像。



濁り雨
Sumiko Shoji (42歳・ドイツ)

10分20秒 ドキュメンタリー

ガンを告知された男が、どう克服していくかを語る。死の恐怖に打ち勝ち、これからの人生を思う。



N'tamat
ンタマ
Jordane Maurs (29歳・ドイツ)

19分39秒 ドキュメンタリー

アフリカ・マリ共和国の村の子もや家族を通して、時間と空間を超えたイメージを表現する。



Sotto il mio giardino
ぼくの庭の下に
Andrea Lodovichetti (32歳・イタリア)

19分54秒 ドラマ

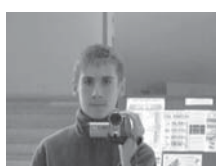
蟻に熱中する少年マルコが蟻の巣の観察から隣の奥さんの殺人事件を調査するミステリー。



Simple Day
シンプルな一日
Janis Vitolis (19歳・ラトビア)

1分00秒 アート

地面に書いた絵に合わせて1人の少年が寝転んで平面的な動きを演じる愉快な1分間映像。



Who I Am (Not)
僕ってなにもの？
Peter Vodicka (21歳・スロバキア)

1分00秒 ドラマ

逆立ちが苦手、中国語はわからない、オルガンを弾けない。ただこんな僕でもこのビデオを撮っている。



MADE IN JAPAN
メイド イン ジャパン
Promofest (スペイン)

6分00秒 ドラマ

母から父は日本人だと知らされ日本へ行くが、自分が東洋人の顔をしていないのが疑問に。



VOICES WE SHALL NEVER HEAR
人間に聞こえぬ声
Leandro Blanco (59歳・スペイン)

5分00秒 ドキュメンタリー

自然と人間の関係を海の生物の映像から、人間に支配された生き物の悲鳴な声を語る。



La Biquette Émissaire
身代わりの子ヤギ
Filippo Filliger (30歳・スイス)

11分00秒 ドラマ

トラブルの絶えないカップルの映画を、劇中劇の手法で全員女性のスタッフが制作する。



CLIMATE CYCLE
気候のサイクル
Undercurrents (イギリス)

20分00秒 ドキュメンタリー

環境問題から飛行機は使わずイギリスからオーストラリアまで自転車で旅するカップル。



Seeing
見つめる
Robin Whernary (24歳・イギリス)

7分10秒 ドラマ

ある夏の午後、柔らかな日差しの中で少年がたたく足音が静かに風景を見つめている。



TVF30周年は、「コミュニケーション」の、 温故知新の“歴史遺産”である。

映画作家
大林 宣彦

30年の昔、TVFの幕開きは中学生の作品から。当時こういう公の場で子供が作った映像作品が堂々と上映される事など有り得なかった時代に、である。しかもその第1回ではまだ無名に近かったとはいえ、今はもう50代となり日本映画界のリーダー的存在である映画監督たちが多数、青春の意気盛んな作品を応募してその悉くが落選している。テレビ界のヴェテランの作品も忽ち姿を消し、即ちTVFはその頭初から「映画」や「テレビ」から遠く離れ、これから始まろうとする「市民による発言・映像表現」に目を向けようと自覚していた事がよく分かります。それからの20年間は、老人や女性、子

供たちの個人的な表現世界がTVFの総体を成す。それは一見「アマチュアコンテスト」の様相であるが、TVFはこれを、これまで“声無き声”であった庶民による「市民ジャーナリズム」の誕生と位置付けて出発した。

その意志こそがTVF独自の歴史を刻み、同時期に生まれた他の多くの「アマチュアビデオコンテスト」がバブル崩壊と共に呆気なく消え失せていく中を、TVFのみがいわば“必死”の面持ちで命運を保ち続けて来れたのは、この「市民ビデオフェスティバル」は世界のジャーナリズムを正常に保ち得るための“文化”でこそあるという認識からであったろう。例えば明日の

テレビが一日中TVFの作品群を放映している様子を想像すれば、それは如何に穏やかで平和を願う「コミュニケーション」の世となるであろうか、とわくわく胸躍って来るではありませんか!ぼくらの未来は、そういう時代の実現をこそ目差さねば!

そして此処10年の映像機器デジタル化の激変を受けてTVFに青年たちがわっと押し寄せて来た。彼らがぼくらの「未来を創る」のだ。そしてそれまでの20年を支えて来た「8ミリフィルムから繋がるアマチュア軍団」は今や80代の「聡明な市民」として此処にある。

TVFは「コミュニケーション」、「ジャーナリズム」の「温故知新の器」となった。その貴重な「歴史遺産」を無駄にしてはならない、未来に生かさねば、と思うのです。



TVFは疲弊した社会の泉になり得るか

ビデオ作家・成安造形大学教授
小林 はくどう

TVFが現在まで続いたのには日本ビクター、事務局スタッフの頑張りが挙げられる。地球上から今回も54の国と地域から集まったが、日本ビクターのネットワークがあればこそである。映像産業のメセナ活動として歴史に残るものである。

TVFで毎回語られてきたことは映画やテレビとは違う、市民のやりとりの中から表現される「ビデオコミュニケーション」である。別な言い方をすれば「市民ビデオ」「ブラウン管民主主義」。テレビ受像機のブラウン管にはどんな画像でも対等に再現される。故にプロ、アマの国境もジャンル、年齢の区別も要らない。地球市

民の全くボーダレスなフェスティバルなのだ。

幸いなことにVHS、DV、DVDなどの普及とともに、ビデオカメラが日常化し、次第に地球規模で参加国が増えた。そして他では見ることができない地球上の市民の「今」を見ることができた。80年代のベトナムの解放、東欧・ソ連のビデオアート、90年前後のベルリンの壁崩壊、アマゾンのインディオビデオ誕生などを見つ、審査というのは自分が社会へ伝える現代の生き証人なのだと自覚している。

昨年6月にTVFシンポジウム(TVF30年記念市民ビデオフォーラム)を催した際、秋葉原通り魔事件が話題になった。容疑者はサイトの掲

示板に膨大な書き込みをしているうちに次第に孤立感を深め、殺人を予告するような書き込みを行ったという。この容疑者には不幸なことにコミュニティがなかったようだ。

コミュニティは市民であるという日常の生きがいの自覚である。TVFも元気ができるメディア・コミュニティなのだ。今までTVF作品を見て、感動し、自分も生きがいを見出したというエピソードは多い。民族戦争や世界不況の嵐はいつまで続くのだろうか。疲弊した社会に元気を与える泉が市民ビデオなのだ。

今回、例えばハンディを背負った少女を追いかけた『Melanie』『クラリネット・ポルカ』、闘病生活から生還した『自毛デビュー』肉親を介護する『共に行く道』『父との遠くて近い距離』などをじっくり見てほしい。決して明るくはないが、生きる喜びと苦悩を噛み締めていただけるであろう。また有機農法『本来の稲作』や『蚕道を極める』、老女の里帰り『遙かなる故郷』も幸せ感溢れる作品である。



大切に守り続けたいもの

ビデオ作家・日本工学院専門学校講師
佐藤 博昭

最終審査会までの4日間は、完全に部屋に閉じこもって作品を見ていた。そして「この作品を誰かともう一度見たいか?」と、自分に問い続けた。この態度は毎年変えていない。作者の体験を他の誰かと「共有」することが、とても大切だと思っているからだ。作品制作の現場にあった作者の思いや、撮影をされる側との関係は常に尊いはずだ。その尊さに対する敬意を、見る者は忘れずにいたいと思う。携帯やPCなどの多くのパーソナルメディアが、利便性と引き替えに人に対する敬意を失わせている。TVFによって繋がってきたのは、それらの対極にある美しさと豊かさだだと信じている。

今回の作品を見終えて、特に印象的だった作品がある。フィリピンのキドラット・タヒミックによる『我が子を撮り続けて20年(ビデオサラダ3人の息子+1)』である。タヒミックはインディペンデント映像作家の親分みたいな人で、TVFの受賞歴もある。部屋にある大きな木箱の中には、あふれんばかりの8ミリフィルム、16ミリフィルム、3/4インチカセットやVHS-Cなど、彼がこれまでに撮影したさまざまなフォーマットの映像がある。彼はフィルムをスパゲッティと呼んでいたが、そのごちゃ混ぜ具合が凄い。これらの映像は彼の劇映画の断片や、息子たちと一緒に彼自身が出会ったさまざま

な国の人達である。日本の映像もある。既にノイズだらけで見ることが難しいものもある。息子はPCの使い手で、父親の編集をサポートしている。この膨大な映像の集積から作られた家族の肖像はそのまま個人映像の歴史でもある。そしておそらく、彼の作業は終わらない。どんな形であれ、映像を制作する道具があるならば、彼はそれを持ち続け、誰かに向けることだろう。ビデオの歴史もまた、そうして繋ぎ合わせられてきた人とのコミュニケーションなのだ。その力強い継続の意志に敬意を表したい。

紙面に限りがあるため他の作品に触れられないのだが、例年以上に多くの「敬意」を抱かせてくれた作者の皆さんに感謝いたします。



上手な作品ばかり

作家
椎名 誠

数えてみると選考委員になっても十数年になります。そして当初から比べるとどの作品もすさまじくうまくなっているのに驚くのです。

ドキュメンタリーにしてもドラマにしても、みんなツボをおさえているというか、作品づくりのセオリーをきちんとふまえ、なおかつ個性のある傑作がたくさんありました。

応募者の年齢層の幅が広がるとともに若い人の作品群が潮のように最終候補作100本の中におしよせてきて、世界中の「いま」をこのようなプライベートの映像でたのしめる喜びをあらためてよく感じました。

個々の作品づくりのモチベーションも勿論の

こと、それぞれに製作者の意図するものがきちり描かれているのも驚きでした。

全体の傾向も、少し前の紋切り型のカチッとしたジャンル分けから離れて、かなり柔軟に追うべきテーマに迫っている作品も沢山あり、それが全体の作品の平均的なレベルアップにつながっていたように思いました。

日本の作品と外国の作品を比べると、製作方法の構造が基本的に異なっていて、簡単にいうと、日本のものは個人が製作している作品が多く、海外はプロダクションや組織委員会のようなところで作っているものが多いようでした。これはプロとアマということではなく、映像

作品を作る、という姿勢の問題ではないかと推察したのですが。

個人のきわめて家庭的な作品であろうが、組織の作品であろうが、見る人をその作品世界にどれだけとりこめるか、というのが、究極的には、この種のコンテストのキーワードになるわけですから、そういう意味でもそれらが渾然一体となった中で覇を競う、ということに「ときめき」を感じました。

さらにどの作品も技術的に大変うまくなっている、ということこそは五、六年前から衝撃的に感じていたことです。ハードとソフトの密接時代がきたといましようか。



作者・対象・見る者の三角関係

アニメーション映画監督
高畑 勲

中年以上の女性たちが記録映像の秀作をいくつも生みだしていることに嬉しい驚きを感じ、今更ながら、現代を生きる女性の活力と、それを支えるビデオ撮影・編集機器の進化を思った。

撮り続けた身近な家族の映像を編集し、来し方を振り返りつつ作者の「思い」をナレーションに込める、というのは、ホームビデオの原点だが、そういう作品でも、捉えられた映像や対象そのものに強い力や意味がある場合、しばしば、言葉で語られる「思い」を超えて、あるいはときにそれを裏切って、映像の方が直接こちらに語りかけてくる。作者の意図や思いと映

像の主観性客観性の度合いが微妙にズレて拮抗すると、見る者は、作者の「思い」だけに流されず、そこに提出された映像に直接向き合い、自分の考えをめぐらせたり、自分の感慨を抱くゆとりを与えられる。さらに、対象と作者の親密度を量ったりそれに感心したり、作者に対して信頼感や疑惑・批判を芽生えさせたり。

こういう、いわば、作者・対象・見る者の三角関係を体験することこそ、映像をしっかりと見る醍醐味であり、映像が「滋養」と感じられる瞬間である。今回もそんな体験を何度もさせてもらった。夫との距離の取り方が絶妙で、作者自身も主人公たりえた『共に行く道』をはじめ、

『メラニー』『セクション60』『自毛デビュー』『タガメ』『本来の稲作』『蚕道を極める』『コカイス』『遙かなる故郷』『クラリネットポルカ』『雲雀』『父との遠くて近い道』『トラフィック・チルドレン』『考えて—そして忘れないで!』『平和の肖像』、そして『心の鍵』『変化』『赤い紙船』など。

海外は今回も専門家またはその予備軍によるドラマやファンタジーの秀作が多く、感心した。『身代わりの子ヤギ』など、佳作にも面白いものがあった。アニメーション作品は少なかったが、その技法を取り入れたものには、『建設中』『記憶全景』といった驚くべき達成が見られた。



新文化誕生

映画監督
羽仁 進

今年の審査は、とても楽しかった。

『メラニー』『自毛デビュー』『共に行く道』には、全面的に感服した。自分のおもいが、表現と見事に溶けあって素晴らしい。

ところが、その後にもみごとな作品が続くのが、今年の特徴である。『コカイス』『記憶全景』…。『雲雀』は小鳥と人間のそれぞれの生きざまが交叉する点をつかんだことが嬉しかった。『私の大家族』は、二十一世紀において、もう一度家族を考え直さざるを得ないという実情を面白く提示していた。いつもは、三十本の優秀作品の半分ぐらいは、表現が不十分だと思って来たが、今年のはじめて三十本では

足りないと感じた。大分昔であるが、先輩の荻昌弘審査員から「羽仁君は荒野に叫ぶ予言者だ。君の推す作品に、せめて十分の一、君の言っていることが実現していたら、私だってグラン・プリに推すよ」と言われたことがあった。荻さんが亡くなられた後には、河田茂さんという天才的な人物が現れて、TVFは様変わりした。しかし、未だその時には、孤立した作品に素晴らしさは限られていた。それが、今年は全く違う。新しい文化の誕生と言えるような事だと、私は思った。

『高校生は乗車を妨げたのか』『12.7%』などの高校生の作品にも、それは明らかだ。自分

達のまわりで思った事を、いかにも彼等らしいスタイルで描いていながら、彼等とは違う部分のある社会のことも、キッチンと視野に入っている。『12.7%』が、先生達の中にも、憲法がどのようにして人間の社会にひろまったか、を御存知ない方がかなり居られることを指摘したくだけりにも、それを感じた。

自分の内部を、深くみつめる。そこから出発しているビデオは、増えてきた。しかし、その現象が他の人々にはどんな風に見えるのか。そこまで見る心の広さは、最近の文学、ジャーナリズムにあまり感じられない、それがビデオの中で誕生して来ているのだ!



個人ジャーナリズムの完全開花

日本ビクター株式会社
北見 雅則

ビデオ時代の草創期を築いた先輩達は想像していたのだろうか、今年のTVFを。

多くのジャンルで心に残る作品が多かった。

まさに個人ジャーナリズムは、完全に開花したと言えるのではないか。身の回りに起こる様々なテーマの本質を個人の目で推理・洞察・組み立てする、そうしたりテラシーが市民のものになったと言っても過言ではない。

『共に行く道』は現在深刻化する「老老介護」をコミカルに、しかしそこにある「危機」を丁寧に見せてくれる。旦那さまの病状を気遣う奥さまの「本音」とこれからのことをさりげない言葉で綴るナレーションは傑作であった。

『メラニー -自分の道を行く-』は盲目の少女の健気という言葉では足りない清々しさと周囲の障害者との「成熟した社会の距離感」を見せてくれた。

『タガメ-飼育と観察をとおして-』は中学生の丁寧な作品作りでタガメ生態を多くの人に伝える事のみならず、ビデオの可能性を改めて伝えてくれるものだった。

千本を越える作品を送ってくれた中国の人々に対する感謝を伝えたい。作品の中に見ることの出来る現代中国の世相、生活、気持ちが伝わってくる優れた作品が多かった。

『虹橋横丁のオリンピック』は惜しくも優秀作

品賞入賞は果たせなかったが、オリンピック開催を迎えた中国の庶民の心を映し出す好感の持てる作品。『赤い紙船』は出稼ぎに行った両親を待つ子供達を描いた。どちらも日本或いは世界の原風景とも言える作品。心に残った。

病氣と戦う人を描いた『自毛デビュー』『とことん元気で』には勇気と元気をもらうことができた。

珠玉の作品群、31回目を数えて累計五万二千本を越えた。

今年は20才代以下の作品が7割を超え増々そのバラエティを増してきた。「個人から発信するジャーナリズム」が今まで以上に加速する。そんな予感を持って審査を終えることができた。

改めて、TVFを支えて来てくれた応募者の皆さまとビデオ業界関係者の皆様に感謝したい。



最終審査の様子



TVF2008の主な活動

「観る」&「学ぶ」

TVF30年記念企画

TVF市民ビデオセミナー <5/17、6/21、7/19、9/20、11/29>

●会場 ビクター新橋ビルB1ホール

「TVF市民ビデオセミナー」は、TVF入賞作品アーカイブの中からテーマに分けて作品をピックアップし、作品の狙いと表現との関係をより深く学べる場です。講師には、TVFの審査委員である佐藤博昭氏をお招きし、題材の見つけ方や構成などについて解説していただきました。毎回、TVF入賞者の方をゲストにお招きして、ノウハウも披露。「作品づくりで悩んでいる」、「映像や表現についてより深く知りたい」など、作品のレベルアップを目指している来場者の皆さんと一緒に、観ることから創ることへ、参加して発言できる交流の場となりました。

開催内容

テーマ『自己』を描く	自分の内面や心情を映像に	開催日 5月17日(土)
テーマ『人』を描く	家族や知人、仲間を映像に	開催日 6月21日(土)
テーマ『社会』を描く1	地域や伝統、教育、格差を映像に	開催日 7月19日(土)
テーマ『社会』を描く2	環境、観察、子育て、仕事を映像に	開催日 9月20日(土)
テーマ『アート』で表現	表現方法の広がり学ぶ	開催日 11月29日(土)



「観る」&「学ぶ」

TVF30年記念企画

TVF市民ビデオフォーラム <6/14>

『いま、市民ジャーナリズムがおもしろい!』 会場 横浜美術館レクチャーホール

TVF30年の歴史の中で、近年、とみに応募数が増加しているビデオジャーナリズム作品にスポットを当て、時代の推移の中で培われてきた市民映像文化の現在と、これからの可能性を探求しました。

第1部 特別講演

「ビデオジャーナリズムとわが人生」

ゲスト 津野 敬子 氏 (ビデオジャーナリスト、アメリカDCTV創設者)

映像ジャーナリストの先駆者・津野敬子さんに「ビデオジャーナリズムとわが人生」という演題で特別講演をしていただきました。「ビデオカメラとJ.アルバート氏との出会い」「ビデオジャーナリズムのとらえ方とその活動」や、ニューヨークに本拠地を置くDCTVの活動やポリシーなどをお話いただきました。これからの市民ジャーナリズムのあり方が見えてきました。



第2部 TVF作品上映

「TVF30年の市民ジャーナリズムの軌跡と変遷」

進行 小林 はくどう 氏 (TVF審査委員)

小林はくどう氏が、TVF30年の間に蓄積された作品のなかから、時代を映しだし、市民ビデオ発展の過程で重要な道しるべとなった作品を紹介・解説しました。

トークフォーラム

『いま、市民ジャーナリズムがおもしろい!』

司会 小林 はくどう 氏 (TVF審査委員)

ゲスト 羽仁 進 氏 (TVF審査委員) 大林 宣彦 氏 (TVF審査委員)

佐藤 博昭 氏 (TVF審査委員) 津野 敬子 氏 (ビデオジャーナリスト、アメリカDCTV創設者)

TVF審査委員3名と津野敬子氏が、活発化しているビデオジャーナリズムについて意見を交わし、現状と未来、そして問題点について検証。2時間に及ぶトークの中でゲストスピーカーの各氏は積極的に意見を述べられました。その中で羽仁 進 氏は「市民ビデオ、市民ジャーナリズムの素晴らしさは、いつでも1人の人間の視点でモノを見つめるということじゃないかと思うんです。良い悪いということではなく、ビデオを撮るという行為をとおして、市民が市民でありながら、無反省な市民ではなく、見直そうという姿勢を持つことが大切なんだと思います」と発言していました。

TVFは3月の発表・表彰式だけの活動にとどまらず、年間を通じて様々な活動を実施。それは、各種フォーラムやセミナー、そしてワークショップを開催し、作品を「観る」場、「学ぶ」場、「創る」場、そして「交流する」場を積極的に設けて、ビデオ作品の制作に役立てていただく活動でした。

映像関連団体・グループとの連携

映像関連の団体やグループと連携して運営をしています。作品募集、審査、運営ノウハウなど多岐にわたり、人的な交流や情報交換を通して、相互の発展を目指しました。



芦別ふるさとビデオ大賞



愛媛ビデオフェスティバル



湘南映像祭

- 芦別ふるさとビデオ大賞(北海道)
- 愛媛ビデオフェスティバル(愛媛)
- 東京視点(インターネット放送局)
- OurPlanet-TV(インターネット放送局)
- グリーンチャンネル・アグリネット(東京)
- 成安造形大学(滋賀)
- 日本工学院専門学校(東京)
- 香港アジア映画祭(香港)
- The One Minutes(欧州)
- JVC Video Festival 2008(中国)
- ※ 順不同

「創る」&「学ぶ」

TVF30年記念企画

映像教育実践ワークショップ <8/5・6>

● 会場 東京オペラシティタワー32階 アップルジャパン本社

「映像づくりを授業に取り入れるための実務がわかる」をテーマに先生方や教育関係者のみなさんを対象に映像教育の初級ワークショップを行いました。映像づくりを1から学ぶために、「映像教育の目的と実践例」のレクチャーから始まり、機材を使った撮影・編集の実習、そして上映会まで2日間のプログラムで映像づくりにじっくり取り組みました。



1日目

- レクチャー1 映像教育の目的と実践例 (TVFの作品から学ぶ)
- レクチャー2 映像制作の基本
- レクチャー3 教育現場での映像制作について
- グループワーク ビデオカメラの使い方説明
課題内容の説明 絵コンテ作成

2日目

- グループワーク 撮影 編集
作品完成、作品を鑑賞・講評

「観る」&「学ぶ」

TVF30年記念企画

TVF市民ビデオフォーラム <8/14>

『映像づくりで始まる新しい学校教育』 会場 横浜情報文化センター情文ホール

教育現場での映像教育のこれまでの成果や問題点を検証し、これからの映像を使った教育やメディアリテラシーへの取り組み、学習の方法についての課題や対策について探求しました。

第1部 特別講演

「総合学習と映像づくりのすすめ方」

ゲスト 寺脇 研氏 (京都造形芸術大学教授、元文部科学省大臣官房審議官/文化庁文化部長)
寺脇氏は映像教育の効果について「つくり方を教えるだけでなく、チームで何かをつくる経験だったり、お互いの作品を見て批評し合うなかでのリテラシー能力だったり、コミュニケーション能力などを養うこと」。文部科学省大臣官房審議官を務められた寺脇氏は、将来を担う子どもたちに対する健全な育成と、映像づくりを通じた学び方・学習のあり方について、高く評価していました。

第2部 TVF作品上映

「TVF作品にみる映像制作と教育成果・課題」

語りと進行 佐藤 博昭氏 (TVF審査委員)

映像制作によって実現される新しい時代に即した学習効果や、同時に顕在化する問題点、課題、それらをどう考えていけば良いかを具体的に解説していただきました。



第3部 事例紹介

「学校現場における映像づくりの実例紹介」

進行・コーディネーター 下村 健一氏 (市民メディアアドバイザー、キャスター)

- ▼ 公共広告の手法を使った映像表現と産官学協働活動(滋賀県成安造形大学)
- ▼ 地域環境問題に取り組む子どもたちの映像制作活動(福岡県北九州市立曾根中学校)
- ▼ 総合学習をきっかけとした映像制作と部活動の展開(東京都杉並区立東原中学校)
- ▼ 美術コースの必須科目となった映像メディア表現の新たな展開(神奈川県立弥栄高等学校)
- ▼ 地域の問題を映像を通して探求する市民ジャーナリズム(長野県大町北高等学校)
- ▼ 映像を使った総合学習とまちづくりとの融合(神奈川県横浜市立滝頭小学校/まちの元気づくり支援拠点「夢たま」)

各地から成果としてあがってきた多くの事例の中から、学校現場で実際に携わってこられた先生や当事者をゲストスピーカーとして、実施の内容とその効果について紹介していただきました。進行・コーディネーターは、マス・メディアや市民メディアを熟知している下村健一氏。事例紹介の締めくくりに「学校ジャーナリズムは、「私は」を主語にして語れる子どもたちを育てる側面があり、そういう意味で教育効果はとてもあると思います。「あなたの生徒たちから学ぶことを恐れるな」という外国の格言がありますが、メディアリテラシーの取り組みにおいては、先生も生徒も、地域も一緒にスタートラインで一緒に交わりあう。教師、生徒、地域の接点にビデオカメラがあるという基本の構図をおさえれば、自在な形があるべきだと感じました」と述べていました。

国内応募作品一覧

北海道

30年目の祈り 北海道深川東高校放送局
57歳からの挑戦 中村 義勝
Let's you★you! ～幻のいもを探して～ 須摩 洋子
MOTTAINAI 有沢 準一
追え!難破船の謎 稚内北星学園大学
北の大地の片隅で... 笹岡 洋之
北の都札幌へようこそ(札幌市紹介ビデオ総合版) MMTビデオクラブ
コーヒの木 見て楽しみ 飲んで楽しむ 中村 義勝
高校生は兼車を扱ったのか 北海道深川東高等学校 放送局
幸福駅物語～2008～

SRI(安藤佳寿哉)&帯広三条高校放送局 代表・小松里早
郷の丘 山根 茂
射光 佐竹 真紀
スイート フリーズ 牧野 竜二
世紀を超える水松よ、とわに 鶴野 伊功男
そのむこう 園部 真実子
そば処 宗谷 ～待ち合い室の片隅で～ 須摩 洋子
トナカイとMerryChristmas 牧野 竜二
花の競演をもとめて 夕張岳へ 船戸 一志
夫婦そろって農業士 中村 義勝
福士哲平 福士 哲平
フクロウ親子が生きる森～野幌森林公園～ 森 繁秀
宮高沼のソング 山根 茂
夕張メロソング 大栗 一孝
夢に挑戦 ～地球最大の秘境・南極～ 有沢 準一
夢に挑戦 ～地球最大の秘境～ 有沢 準一
礼文の子どもたち 須摩 洋子
レモンソーダ 吉澤 美紗
我が町自慢 町のシンボル時計台 札幌市立北都小学校

青森県

おじいちゃんのお話 ミセスV6

岩手県

馬好きが集まった日 立花 紘
キジ一家物語 小野寺 幸子
姫神山やま開き 啄木の里 木下 鉄雄
ふるさと 関 俊夫

宮城県

Satoru Sato Art MuseumPV8
サトルサトウアートミュージアムグランドオープン実行委員会
イチヨウからケヤキ君への便り 大門 敏雄
七人の侍・熊野古道に挑む 庄子 英吾
評定橋がまた赤い橋だった頃端縫い衣裳の盆踊り 安藤 恭敏
魅れ心に残る洋燈の宿 ～岩手・宮城内陸地帯～ 木村 忠志

秋田県

MIRROR 黒澤組
土の味 秋田でアートアニメを作ろう会

山形県

糸巻き家族 白田 明日香
はじまりは まつ毛の先から 乗田 朋子
ばあちゃんのいない夏 佐藤 広一
るり子とさとし 市川 悠輔

福島県

御柱祭(山出し祭) 宇津木 ゆり子
のぼりはヨイヨイだりはクワイ山登り 遠藤 力生
浜松風合戦 宇津木 ゆり子

茨城県

NAKANAORI STEVE KOSUE
PARABLES STEVE KOSUE
浅野家の畑 浅野 光彦
ある夫婦の物語 加藤 真一
悲しい別れ 小林 茂
減量に挑戦 長妻 洋
桜に会いたい 藤田 カツ子
チェスポロー 滝 孝光
父を想う 廣瀬 清志
つばき...男を待ちながら 赤塚 英徳
人形ふう 内川 嘉子
美人税 小鶴 健
平成インツップ物語(あり) 増田 穂波
本来の稲作 NPO法人民間稲作研究所の探究 浅野 光彦
ローカル定期バス路線 増田 穂波
我が白鳥撮影物語 長妻 洋

栃木県

映像歌集・渡良瀬遊水地 益子 光
親子水辺教室～大平町・永野川～ ひかり映像/益子 光
ショッピングモール 第一日目の1 池田 稔
ショッピングモール 第一日目の2 池田 稔
ショッピングモール 第一日目の3 池田 稔
ショッピングモール 第一日目の終り 池田 稔
撮るという事(総集編) 他人の事など知った事ではない話 池田 稔

撮るという事(1) 支配人に会わせるとは言っていない話 池田 稔
撮るという事(2) 肖像権があるという話 池田 稔
撮るという事(3) アメリカ社会だったら話 池田 稔
撮るという事(4) 63年間思い込みで生きてきた話 池田 稔
撮るという事(5) 子供を出しにする話 池田 稔
撮るという事(6) 断るのが常識という話 池田 稔
撮るという事(7) 銀行に始末書を書かされた話 池田 稔
撮るという事(8) 俺の肖像権はどうしてくれるの話 池田 稔

撮るという事(9) 昨日の私は何だったの話を 池田 稔
野仏 石塚 祐輔
ビデオごっこ 池田 稔
望郷～鶴越西線～ ひかり映像/益子 光
またあした 藤橋 誠

群馬県

「1日 チーム千山苑
GOOD BYE PLANT PLANET MEMORY社
humming tune MEMORY社
あの人がくらしになってやってくる 杉山 市郎
老神の大蛇祭り 塩野 たい
泉月晴れ 隨身門に 天邪鬼 MEMORY社
中世のヨーロッパとふれあう南ドイツの旅 ビデオスケッチ 山下 巖

天然色 ～町医者が大病院建設～ 青柳 完治
峠の歴史 佐藤 利一

埼玉県

IDENTITAT-アイデンティティ Fortunato Ricardo
monochrome 森岡 千織
あけはちよう 黒崎 萌/大井 忠
嘘 加藤 秀樹
江戸六地蔵から「地蔵坊 正元を追って」 溝口 正道
想い出をエピソードで撮ろう!「GZ-HD40-30店頭ご紹介ビデオ」

観光ブームの中で 上石 正典
ガラス工芸職人 筒井 俊明
記憶全景 藤崎 靖晶
救世主をさがそう 横田 将士
切り取られた社会でどう判断するか 佐藤 剛平 SAM's friends
健康を守る新薬の開発 松沢 周平
小江戸川越木道りと梯子乗り 引間 稔
古民家工芸家・駒宮洋作品展より「心のふるさと」 松下 孝子
しょうがい者と接し方を考える 孫 偉

自毛デビュー 加藤 秀樹
スタジオ「くら」～温もりのある空間～ 田中 麗
スポーツを文化に 上條 早季
その音にかけた想い 北堀 翼
地球をきれいにしよう ～環境保全～ 渡辺 とし子
どーんといこうよくよせんと 渡辺 とし子
読書 加藤 郁夫

双輪の夏祭りを追う「見つけた」 駿河台大学塚本ゼミナール
虹魂劇場(ニジロックシアター) 松下 孝子
虹魂劇場 松下 孝子
人形の涙 長日部 真美
館能住の絵本作家を訪ねる 平山 瞬
館能焼～地元素材にこだわる職人～ 糸井 正樹
東飯能駅の歴史～八高線～ 中原 弘貴
百を踏む 田中 進
負けの美学～負けたらって何??～ 風太
見つけた 駿河台大学塚本ゼミナール
未来をみつめる農場 有機農業開拓者と研修生の一年

森と共に生きる 内田 一夫
有機農業法 米作り 吉岡 翔吾
羊毛を染めて紡ぐ～自由に生きる～ 原田 三次
歴史と共に生きる町 ～こちら亀の湯・本町一丁目～ 馬場 義貴

よんぱんproject
若松屋東郷せんべいの魅力 高田 康平
私たちとユメ SAM's Family

千葉県

Central Dogma 松岡 毅
NPO法人パティエ冒険団～カヌー体験会～ 村上 純一
Tunnel Vision Monique van Kerkhof
遊びサークル「浜とびっ!!」 村上 純一
新たな出発 古川 泰子
貴婦人と私 後藤 アツ子
旧モーター車を守る会 村上 純一
久遠の愛 ネガティブ會映画製作倶楽部
公園のサンバ 山本 恵司
こちよい居場所～わいわい善行～ 村上 純一
三番瀬 風物詩の味 山口 弘二
財団法人 藤沢市青少年協会 村上 純一
車中見舞い 中野 慎太郎
社福 藤沢市社会福祉協議会 ボランティアセンター 村上 純一
湘南DVサポートセンター 村上 純一
しいちゃんの畑 室井 孝介
中国 ささやかな土産 真珠入りクリーム 湯浅 純行
特非 聴導犬育成の会 村上 純一
特非 西浜ライフセービング 村上 純一
特非 藤沢グリーンスタッフ 村上 純一
共に行く道 内田 リツ子
残そう日本の原風景 鴨川市・大山千枚田 湯浅 純行
ハイヒール 中野 慎太郎
遙かなる故郷 石渡 恵子
ビタミンI 宮崎 加菜
へその緒一本 中野 慎太郎
みつばちの故郷 石渡 恵子
メダカ取り願末記 岩崎 真澄
闇に落ちる ネガティブ會映画製作倶楽部

東京都

1000円札が 郡司 成美
2×2 家永 浩輔
21→22の寓話 石田 謙
76年後の九・一八 國本 隆史
8丁目 田中 綾子
Another World チームコソック

Art on the nail 中野 森
AV探偵 雨宮睦 土居 省吾
AYAKI 佐藤 健人
B29爆撃 63年目の証言 平岡 基司
BUILDINGS 上甲 トモシ
Candy Machine Music 椎田 公尋
Drawing Tone 田端 志津子
FACE TO FACE 橋詰 牧
Good bye days 代々木アニメーション学院
Her Ironical Me 有川 滋男
「life sketch」 傍島 篤夫
Light-Years 田中 廣太郎
Look! 小野 明子
lost cat 前平 誠一郎
M.O.K 柴田 哲平
Magic in the joys and Sorrows 椎田 公尋
METRO 家永 浩輔
Mt.Fuji 柿原 利幸
My Dear Pig 森田 智子
ParkA 木崎 修平
Plastic-Die Hard 明治大学付属明治高等学校映画技術研究部
Red Manを追え! 山本 武
Retrieve the ZURA パンディッツクリエーション
SHIKIITSU 内田 裕基
SNATCH&SNATCHIN' パンディッツクリエーション
Soft and hard 黒木 大紀
The old bird キャメルフィルム
Tokyo fragment 石井 陽之
「Worker Ants」 鈴木 洋平
青い未来を救え!! 板橋区立志村第二中学校総合科学部
秋深々 長島 宏和
頭に回るは笑い声 高嶋 友也+古都
穴あきつした 明治大学付属中野八王子中学校
あの夏の日 ストロボファクトリー
ある日常の記憶 秦 俊子
アンブレラ 内藤 瑛亮
あんもちご汁はうまかばい 渡辺 千恵子
イエロービーブー 3ネマ健康会
イエロービーブー-Ver.2 3ネマ健康会 松本卓也
イクワ 田中 佑典
いろいろ出てる 梶谷 崇嗣
江戸ゆかた模様は魅せられて 矢口 皓
円卓 金 靖浩
青梅に住む若き刀匠 平野 実季
おじいのサバニ 山城・本田
オセロ 松田 彰
越辺川の白鳥たち 山本 慎雄
オトナの休日 高取 健子
“おめでとう”のHumanlink HMR
おらがせんべい村の世界～ 人道の丘物語～ 浜野 健三
おれ田中 今成 早帆
おれもまてー 岡 慎太郎
カインの一撃 女屋 大志
蛙の歌 高橋 芳樹
格闘ゲーム 大野 あゆみ
陰干し珈琲 3ネマ健康会
痴 赤池 佑介
風をとって 鈴木 野々歩
夏葬 吉野 竜平
門田 表 門田 表
神の悪戯 小栗 はるひ
カメラと一緒に 小林 秀雄
韓国 田口 雄貴
選書の挑戦ツール・ド・北海道完周 蒲 宏樹
学校紹介ビデオ 東海大学付属星高等学校生徒会
消えて下さい 内藤 瑛亮
きぐるみ 坂本 宗市朗
きたむら残念SHOW 明治大学付属中野八王子高等学校
君が大人になったとき 浦澤 修
きみのえがお 井谷 快平
キャッチボールとヘヴィメタル 木場 明義
キャベツかつお風味ー 太田 博正
教育刑事 内藤 瑛亮
巾着田の曼珠沙華 成瀬 清
金の魚の目 草刈 勲
グラスキス 辻 秋之
健康 中村 知好
建築計画のお知らせ 黒木 晃
コーラ 鈴木 一馬
公園の朝 座馬 幸宏
コレクト 北川 仁
コンテンツュー タニ ケンジ
極楽浄土への誘い 渡辺 俊雄
ゴキ 杉山 亮介
「最高の栄養・元気な孫」 荻原 義正
さよなら学食 榎杉 庸子
シダレザクラ 椎田 公尋
写真の少年 土谷 洋平
シャボン玉 尾形 亮介
しらうめだれでもあーと作戦-学生と子供半年間の記憶- 飯島 周
白百合第二幼稚園誕生会 難波 保治
いっちゃんはエレブストに 船橋 栄子
自営業・山本 佐藤 健人
時間よとまれ 荻原 直樹
じゃがいもじゅくのつばさくん 湯本 雅典
自由 マトシティー
水妖-SUIYOU- 秦 俊子
少だけ優しい気持ちで 戸山高校3年H組
ステイタス 新海 岳人
既に耳のなか 佐々木 美那子

生還 渡辺 實
セイキロスさんとわたし 糸曾 賢志/亀淵 裕
走馬燈 逢野 将彰
大切なもの 高橋 智子
タイムスリップ～少年期のふるさとへー 渡辺 秀雄
武田氏滅亡の地を訪ねて 小林 真雄
多摩・はちみつ物語 小崎 愛美
多摩川に鮎が戻ってきた ～多摩川環境物語～ 渡邊 俊雄
多摩の宝箱 あなたの一番大切なものは何ですか? 川又 一馬
揺蕩ふ風 石田 直之
大根侍 北川 仁
たるまさんがころんだ 櫻林 一生
ちいさなちいさなエコ① 資源ゴミの分別 片桐 純子
ちいさなちいさなエコ② ペットボトルのラベルはがし 片桐 純子
チェンジ 加古 拓也
超元気な男 中村 知好
次の夢 映像製作団体ZYANGIRI
テレビ 宮本 美由香
天狗と爺様 荻野 信夫
トイレ 小谷 龍一
トイレ 畑岡 聡
トイレットペーパー 内村 幸央
時の望遠鏡 西山 洋一
トビラ 羽山 友加里
トラフィック・チルドレン ～親に売られた子どもたち～ 国境なき子どもたち

どりっく わーど New-Days
ドイブイ村は今日も元気ですか 荒井 純子
夏の終わり、君と 相羽 誠聡
にやにやにや マッドンディー
ねがい ～まっすくあなたのところへ～ 田中 稔也
のりとなかまど チームみらい
ハイバイ 田中 拓郎
バトミントン 松澤 純
バンクと一休さんと芸人さん キャメルフィルム
日引小ありがとう 葛西 友久
ひょうたん祭り 真部 直廣
ビデオ仲間の絆 道草の会
ビデオレター-yamaojiさん・優子さんへ 新井 純子
病床 額賀 香織
ピエロ 水津 翔子
不妊治療という名のジェットコースターに乗って 川島 邦枝
ふるさと 荻野 信夫
ふるさとは 高取 恒子
不老長寿 緒方 篤
フレイ 新垣 忠夫
部屋映画像 岩谷 聡徳
ペットボトル 鈴木 智香
放課後の友だち コジゲン
星観測 EAJ-KAI
本当に見るべきもの 田村 協章
ボール 鶴見 沙央莉
僕とかげ 實松 野乃香
ポイ捨て禁止 古谷 まりこ
道草もまた楽し 道草の会
真っ赤に咲く花「ブラシノキ」 西森 定三
真夏の戀い 成瀬 清
ミーティング 佐々木 好亮
ミスタイム デジタルアーツ東京
御岳山に生きている 伊藤 恵梨
ミルクレープ 塚田 朋輝
みんな違ってみんないい 田代 詩織
虫さん岳明寮紹介 明治大学付属中野八王子中学校
元従軍看護婦 上田政子の南京 湯本 雅典
やきもの 佐藤 均
山形でゲリラ上映をした 新井 ちひろ/橋爪 明日香
優勝のルーツ 佐藤 俊郎
許されるる命 猪本 紳
汚れたサングラス 鎌田 哲郎
ラーメン 堤 由紀子
ラブソング・イン・ブルー 西澤 幹夫
ランヨークツァー 吉田 八郎
リサイクル 田上 智也
離喪婚 映像製作団体ZYANGIRI
レンズに瞳を 塚田 朋輝
ワープ 内田 慶弥
わかれ道 松井 隆典

Last ARIA
Let Give The Future Not Dirty
Lose
mobile
Mozzarella
MY GRAND FATHER
never give up
PARALLEL
Photo
Relay Concert
Shine On(光の中へ)
SMOKING GIRL
Spring Has Come
STRANGE NIGHT
Summer Art 2007
SYSTEM CUT
The COPY
The Heart
The Strangers in Closet
WANKO KIDS 2007
What is it
Your Back
【秋】
あなたにとって道って何ですか
ありがとう滝頭市場
家出少女エイミ
いそげ!
一致団結した運動会
うつつ
ウツのウミ
海辺の道
埋めると壊れる
えのしまみち
大清水
大清水高校学校紹介
大清水高等学校～自然な校舎～
大清水高校学校紹介
大清水を宣伝してみる
大清水を宣伝してみる
滝頭小学校6年生
お話の科学
おもしろ大道芸
おやじの会紹介
おりゃこががいい
帰り道
かすみちゃん
家電進化(真価)論
瀧沢岳へいつかまた...
学校の怪談
聞かせてお店のよいところ
拳心塾
拳心塾
金魚が結ぶ家族の絆
草の根のロードショー
桑山賢行一手で触れて見る彫刻
ケータイ電話を持つ子どもたち～子供を守るためにできること～

ARTLIVE
山本 祐貴
早川 陽子
庄子 徳生
福嶋 翠
持田 杏子
馬場 桃加
松本 浩志
渋谷 優里
eM family
手島 俊輔
松本 浩志
eM family
松本 浩志
eM family
菅 拓也
稲井 耕介
前田 有佳里
角田 恭弥
WANKO KIDS
東海大学 中島
椎野 徹
佐藤 光
宮本 知保
岩崎学園情報専門学校
山本 新太郎
藤井 早弥香
滝頭小学校5年3組
武井 修平
山田 園子
藤森 研
義之 智子
山本 彰男
進藤 成道
稲川 大樹
さくら林 一生
杉浦 悠季
高橋 美由
中村 陽子
滝頭小学校6年生
重田 佑介
須藤 昭蔵
滝小おやじの会
戸谷 和郎
川口 美帆/棚橋 沙希
勝又 悠
輪島 礼奈
猿田 孝
麻生 竜馬
滝小2組探検隊
拳心塾
拳心塾
藤沢工科高等学校放送部
吉田 博/細見 勝典
川瀬 俊一
東海大学文学部広報メディア学科
薩摩 浩子
謎のコース隊
真木 世之
須藤 昭蔵
アップル
鈴木 忠夫
坂本 博之
宮本首都圏支店
藤井 喜郎
鶴大付属高校放送部
滝小おやじの会
御法川 直樹
市民メディア～受信者から発信者へ～ 東海大学文学部広報メディア学科
灼熱の運走曲 ～フーガ～ 奥村 さやか
修学旅行の思い出102匹の狼たちの旅 滝頭小学校6年生
招待状 鎌倉学園映画研究同好会
商店街のコマーシャル～魚秀～ 辻堂青少年会館
商店街のコマーシャル～お茶のりコバヤシ～ 辻堂青少年会館
商店街のコマーシャル～西山サイクル 自転車でのすばらしい体験～ 辻堂青少年会館
商店街のコマーシャル～和田生花店(父の日のプレゼント)～ 辻堂青少年会館
湘南市民メディアネットワーク
実録!火災発生
人生の道
スキーツアー1
スキーツアー2
早雲台
祖国に
卒業
外から見た滝頭小学校
滝頭市場を励ます会
滝頭の安全・危険
滝頭小学校紹介ビデオ
滝頭のお店ってどんなところ?
滝頭の町の歴史TMRニュース
滝頭ビデオフェスティバルの軌跡
ただ、ひたむきに
小さな空間
小さな町の新聞社
伝えたい。現したい。～旅館文化が伝えるもの～ 東海大学文学部広報メディア学科
つまさき 勝又 悠
手と心が通う場所～わくわくわく作業所を追う～ 東海大学文学部広報メディア学科

テニスボール君の冒険
東京隊女
時間(とき)
とりあえずCM
どちらか魔女
なかよしドレミっ子
泣く人たち
ニトロ
根岸橋商店街突撃レポート
根岸橋通商店街キッズさつえい隊
農村における観光 長田 枝美子/溝江 翼/石川 侑典
残り時間 代々木アムネーション学院
野良猫 ぶらり旅
ハンディを乗り越えて 私 取材日記
晩秋に想う 内田 長吉
柘と飛鳥と僕 真木 世之
比較 藤沢市立湘南台中学校文芸部
ヒキュ 浅野 開
ひとりアトラライブ 大園 玲子
姫の卑屈な日常 長岩 久美子
広島城への道 勝又 悠
ビデオレター 添田 邦彦
フィルムコミッション 滝頭小学校
フィルムコミッション 川村 真未
藤沢青少年協会 本間
藤沢青少年協会 棚橋
藤沢青少年協会 川口 みほ
筆とだるまに託す想い～職人・荒井冠星を追う～

東海大学文学部広報メディア学科
BLA[iz]
BLA[iz]
金子 喜代子
本社のお神輿 黒崎 靖規
神人間対半透明人間 谷本 海和
ぼくらのa-ga論バトル!! 鎌倉学園映画研究同好会
また今宵も来るやあらむ 中村 陽子
学び会う楽しさ～ツルセミに通う子どもたち～
東海大学文学部広報メディア学科

BLA[iz]
BLA[iz]
金子 喜代子
黒崎 靖規
谷本 海和
鎌倉学園映画研究同好会
中村 陽子
東海大学文学部広報メディア学科
マラソン 進藤 成道
マラソン メイキング 佐藤 光
未確認少年 鎌倉学園映画研究同好会
水をととしてみる中国 江里口 晋/林 幸太郎/遠藤 絢子
道の向こう、道より向こう 藤沢市立湘南台中学校文芸部
みんなおいてよ、ほっこり村へ 森 勇馬
みんなで作ろう湘南台のクリスマス ほっこり村
ムキ蔵の恋 文教大学川合ゼミナール
ムキ蔵のデート 神奈川県立厚木清南高等学校映画部
メイキング 神奈川県立厚木清南高等学校映画部
目久尻川の汚染状況 キッズさつえい隊
盲目のパーティー 綾瀬市立城山中学校放送部
屋根書き 浅野 開
幸～殺しの螺旋～ 伊藤 幸晴
夢たまたま活動ビデオ コラボ企画
ラクガキパレード 夢たま
リアルカクレンボ 加藤 歩
レッツ藤沢INTAビュー 鎌倉学園映画研究同好会
レッツ藤沢 山本 真太郎
わかばニュース 山城 あきお
和菓子用 さくら葉を追って 滝頭小学校5年3組
私が授業に出るまで 木賀 郁弥
私の、デート前夜の過ごし方 神奈川県立川崎高等学校 勝又 悠

新潟県
USU aka SQUEZ「Blue Film」 MAME from ナカジマセイサクショ
祈りのある風景 琉球の信仰 河辺 明彦
富山県
フルサトのコトバ 松井 志帆
石川県
KAGAまつり考 ほうらいまつり 宿谷 昭之助
Pour l'amour de Dieu.(神に愛を込めて) 古市 牧子
兄のいる島 小林 陽治
京都のともたち 宿谷 昭之助
四高海艇部遭難から67年 藤平田 友市
七十八オの探究 宿谷 昭之助
ふる里 宿谷 昭之助
北陸地方ARDF競技大会 岡野 重和
祭りの町にて ほうらいまつり郷の丘 宿谷 昭之助
福井県
豊の昔ばなし「ねぶつておくは はなし」 豊公民館
豊の昔ばなし「狐川」 豊公民館
豊の昔ばなし「狐にばかされた若者の話」 豊公民館
山梨県
Babazula with Nourah tour in Denmark 寺岡 黙
長野県
12.7% 長野県神村高等学校放送部
85歳を祝い! 竹内三治～西伊豆の旅～ 竹内 正幸
SNAKE BANANA TRIP / へびはなとりつぐ しのはら かがみ
上田城探訪記 草野 彰夫
「音絵」で命をつづる ～病床からのメッセージ～ 中沢 裕
スペシャルオリンピック選手団を迎えて 有賀 清
未完成・田園狂詩曲 虹 雲人
妙義道 吉野 和彦
妙義道 その葛藤 吉野 和彦

神奈川県

新潟県

富山県

石川県

福井県

山梨県

長野県

国内応募作品一覧

岐阜県

catch and eat	吉木 敏博
青葙の山の講まつり	長井 幸彦
あけるまでの短い間	塚本 美奈
跨座式モノレールのバイオニア	惜別 犬山モノレール 稲澤 一宏
生産日本一大垣の木柁	大垣市視聴覚教育連絡協議会デジタルグループ
戦国時代の異端城?!	墨俣・一夜城 稲澤 一宏
「田の神祭り」を支える人たち	～下呂市森地区の伝統と継承～ 地域研究「田の神祭り」取材班
チェーン オブ スモーカーズ	筑岡 浩児
地上に降りた箱舟 ソーラーアーク	稲澤 一宏
手力雄神社火祭り	石川 忠夫
伝説を形に変えて ～「龍神火まつり」をつくる地域と人びと	地域研究「龍神火まつり」取材班
とも	松島 俊介
中仙道遺産～加納宿～	小野 彰久
日本の国際電波通信を支えた証!	依佐美送信所記念館 稲澤 一宏
鳳凰歌舞台に魅せられて	～下呂市御殿野地区の生活文化～ 地域研究「鳳凰歌舞台」取材班
老コンビ 秘境のイワナ釣りに挑む	中村 諭

静岡県

青春歌舞伎	八木 通雄
三島夏まつり	遠藤 久義

愛知県

5.5フェアトレードウォーク10	杉本 正次
7月の水芭蕉	小池 淑恵
Dualism	中京大学現代社会学部メディア表現技法3班
I'm home.～ロガ依存を乗り越えて	中京大学現代社会学部メディア表現技法4班
Loved Letter	横山 善太
NO ONE'S(シャンプーPV)	中根 康智
Replay	中京大学現代社会学部メディア表現技法1班
「会津PR」CM	中根 康智
あい	林 一嘉
あの時がこの時になる	亀山 千尋
雨の工作	渡辺 華音/小池 淑恵
雨の動物園	木村 昌資
命綱	同朋高等学校放送部
エレベーター	中根 康智
大府⇄東浦100km徒歩の旅	大府青年会議所
お酒・タバコ・そして・・・	同朋高等学校放送部
齋藤さんといっしょ。～ルミナリエ編～	大石 フジコ
セカンドオピニオン《私のがん治療記》	関澤 清見
中学校自慢番組 Junior High	株式会社キャッチネットワーク
パラダイスドラッグ	中京大学現代社会学部メディア表現技法2班
また一つ勉強をした 髪斗あわび祭りで見えるもの	小池 大輔 同朋高等学校放送部

三重県

Nameは富士雄!	山本 雅久
SHIBAINU	浜口 泰昭
～ありがとぅを永遠に 名水100選 智積羊水を守る	四日市ビデオ研究会
伊賀流忍者博物館CM ロングバージョン	山本 雅久
伊賀流忍者博物館CM	山本 雅久
伊勢神宮川曳よりビューティー&クライマックス スナップ	ビデオ中間GT4(田口 実/長尾 正男/三好 定夫/若宮 保之)
空見	中村 智宏
芭蕉に見る日本の心	山本 雅久
ぼくのまままき	中村 智宏
モーニングロード	中村 智宏

滋賀県

A Leaf	中村 亜樹
Ambient	石原 奈知
Animators Survival Kid	水野 清太郎
Beautiful Born out	石原 奈知
Kiru	多田 裕毅
maktub	片野坂 亮
イサキ	多田 裕毅
陰オクリ	浅日 香苗
牙城	萩原 裕之/宮本 光男
気まぐれロボット	村上 直子
クラリネットホルカ	浅日 香苗
ザリガニ	西尾 行光
自殺	中 佑樹
年のはじめに	青島 絵里花
馬鹿なオカンと親不孝なれ	北上 知志
ふりんきんぎょ	中村 亜樹
私と車の奮闘記	村上 直子

京都府

APPROACH	坂口 慶太
Memories of Cyun	村松 均
My sweet doll	寺田 めぐみ
Ultrasonic Scapes	柳沢 英輔
蒼の焦点	篠原 優馬
一期一画	富楽 明美
映像ができるまで	田島 やよい
オールスター総出演!! 1カットに1回、役者が変わったらどうなるか?	大矢 侑輝
心臓停止	大辺 修
時代祭り「風流踊り」誕生	富楽 明美
すれ違い	田島 やよい
大団円	竹村 瞳
東福寺郷 平成の大修復	富楽 明美

特許出願中
日の終わり、そして朝
傍観者
めぐるめぐる
ヨリドリミドリ
リアル
りんご館あるいは祭の夜
私と祖父と祖父の祖父

山下 治男
中村 文人
廣畑 祐子
大辺 修
廣畑 祐子
廣畑 祐子
京都市立下鴨中学校バノコ部
竹村 瞳

大阪府

Charaful(キャラフル)
DAPで好きな音楽を聞く
DAY SPEED BLUE
Grand father
NOBODY UNDERSTAND.
Where about(ウェア アバウト)
妻の心臓
明日の世界
「家茶」
蛸婿
かぞく
悲しみを食べるロボット
軍艦アハート 再び
行動してこそ意味のある思いと、移り気な食欲
最初で最後の事件～最近の若者は、諦めるのが早いので～

篠原 千奈
水田 哲生
石原 貴洋
橋本 優一
中島 裕作
梶本 麻美
ゴジダツジ
石上 大樹
西野 孝宏
鋤柄 真希子
山本 公明
映像制作個人
新堂 順一
中島 裕作

大正琴
父との遠くて近い距離
天王寺舞楽IN聖雲会
蜻蛉池公園散策
ニアミス24
「ネイチャー・ネエチャン・エコは悲しみとともに」
「派遣社員とリボルバー」
ブルセラショップ店長の、えせエコロジスト精神とその結果。

中島 裕作
水田 哲男
新堂 順一
吉村 久雄
映像きしむだ
森下 淳士
西野 孝宏
西野 孝宏

津湾川下り
店じまい
理髪店にて

中島 裕作
映像きしむだ
森下 淳士
堀 皓二

兵庫県

LETHARGIC SLEEP STUDIO SLEEP
甘党誕生日
インノセント
うさぎとおおかみ
えらいマニアに嫌いでしまった!!
カットバックの編集のいろいろ
茅葺屋根再生
北前船の来た港
コマの不思議
コンプのふるさと
桜散る頃
心の強さ
自衛隊探検記
自書伝～あい スマイル編～ 日ノ本学園高等学校放送部OG
タガメ・銅骨と観察をとおして・姫路市立菅野中学校生物・理科研究誌
たそがれ
川岸 成志
天空の城 竹田城
僕の自転車記念日
遺言
高田 知幸
夢 KPGC-10
我が家の八月十五日

長畑 壮治
青山 十詩子
青山組
大塚 静香
藤原 肇
岡本 泰宏
坂口 吉弘
藤井 隆之
松井 凌
本田 渡
安井 有沙
松本 敏宏
日ノ本学園高等学校放送部OG
姫路市立菅野中学校生物・理科研究誌
川岸 成志
広瀬 友三
高橋 美和
高田 知幸
森 哲也
四鬼 祥行

奈良県

伊良島島ロマン海道「2008マラソン」
神の宿る島大神島を訪ねて
就活生の言い訳
伝統の技を支える手
日本でたた一つの空港

吉岡 章
吉岡 章
武蔵 秀夫
佐原 説二
吉岡 章

島根県

神々を迎える日 直良 斉

岡山県

SINCE 1911 西平 和生
Short film show (head cleaning video) 西本 倫浩

広島県

愛ラブ農作業
ありがと広島市民球場～最後のカーブどん～
あれから63年
海への祈り
おしどりの住む町
惜別 急行列車
「世羅昭おじさんの人生劇場」
とことん元気で
土石流列島日本
母なるフナ林
広島城でみさご(猛禽類)の獲物の捕獲
フナはわが母

中森 義隆
秦岡 紀行
浜崎 就朗
宮崎 美枝
末岡 一登
清原 正明
菅 昭和
松田 治三
沖本 賢二
岩下 善二
石野 一之
岩下 善二

山口県

踊り曳き山が醒す地域の輪
缶太郎旅日記
京の都は 紅葉満彩
クモハ42
元気に育て別所のギフチョウ
心ふれあう通学路
新年の注連縄張り
待てども・・・

大野 進二
長池 敏昭
國廣 春爾
大野 進二
小田 忠弘
宮下 弘
星田 憲治
大野 進二
小田 忠男

香川県

むっちゃん5 ～さぬきうどんを守れ～
香川県立多度津水産高等学校放送部

愛媛県

秋 中央アルプスを歩く 村上 泰一
蟻の戦い 舛岡 正文
徒流しに魅せられて 松本 万治
徒流しに魅せられてVer.2 松本 万治
生まれることは生きること 松本 万治
ええのができるぜえ～ 岡野 鏡子
お手軽スポーツ松山 松山市立東中学校
カザフスタンその風土と人々の生活 高田 多津男
こんにちわ 河野 寿美子
巢立ちまで 黒河 貴
つららの名所 滑川溪谷 村上 泰一
中島の空の下で 松山市立西中学校
雲雀 黒河 貴
姫原今昔物語 松山市立勝山中学校
ふるさと バレット♪ 藤本 美紀
ボクへ。 藤本 美紀
まだまだ元気 只今101歳 玉井宗市さん 今井 策太
野球王国を支えるスタジアム 松山市立雄新中学校放送部
ロシア人墓地清掃奉仕活動 松山市立勝山中学校
路面電車で巡る大学の街 松山 松山市立雄新中学校放送部
私の旅を100才に設定 舛岡 正文
私は君の風なりき 松本 万治

高知県

老人とスッポン 岡崎 昭平

福岡県

Sand wich 西澤 岳彦
「永遠の夏」内浜吹奏楽部の記録 川鍋 雅之
親父と俺、ただ面白く生きる也。 菊沢 将憲
神様たちのはっけいよ 萩尾 夫美子
カルロス・ティエーチング ルウヴィ・ビバピズ・ブランド・ハウス
三姉妹 和田 恵里菜
尻祭り祭り 吉村 弘行
嫁ぐ 渡辺 輝子
年に一度の住民手作りの むさしが丘夏祭り 永末 邦男
新屋 隆義
宮移り 久田 保寛
夕焼けアパート 菊沢 将憲
「ラン」 津菜 大心

佐賀県

まちがえたって、みんないい 喜多 浩人

長崎県

読早海を見続けなくて・・・ 創成館高等学校放送部
一大荒行 中川 勝二
里山の誘い(シリーズまとめ) 市山 昭夫
古里ののどかな水辺の物語 松尾 洋一
孫 太田 丈生

熊本県

あんなもちご汁はうまかばい 渡辺 千恵子

大分県

チャイナからコンニチハ 堀川 清則
翔びたせメジロン 堀川 清則
浪花のラスト小荷売人2～フレンチおやじのスペイン奮闘記～ 岩本 寛司

宮崎県

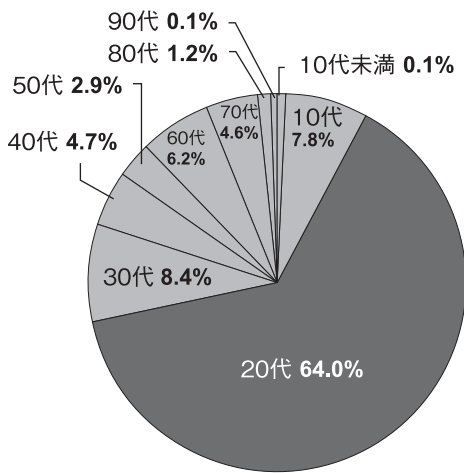
飽くなき挑戦 佐藤 哲朗
打ち植え祭 松下 マサ子
ガチウウのピーちゃん 森山 つや子
山里の折願 佐藤 哲朗

鹿児島県

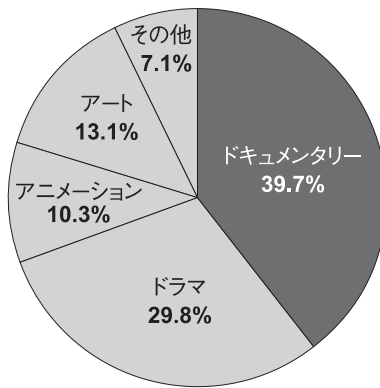
せつとべ 堂福 勝

沖縄県

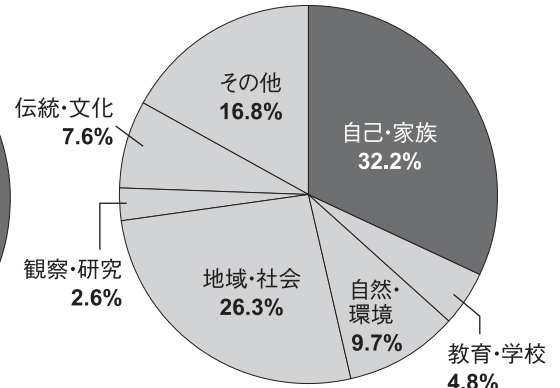
がじゅまる 仲村 颯悟



年代別



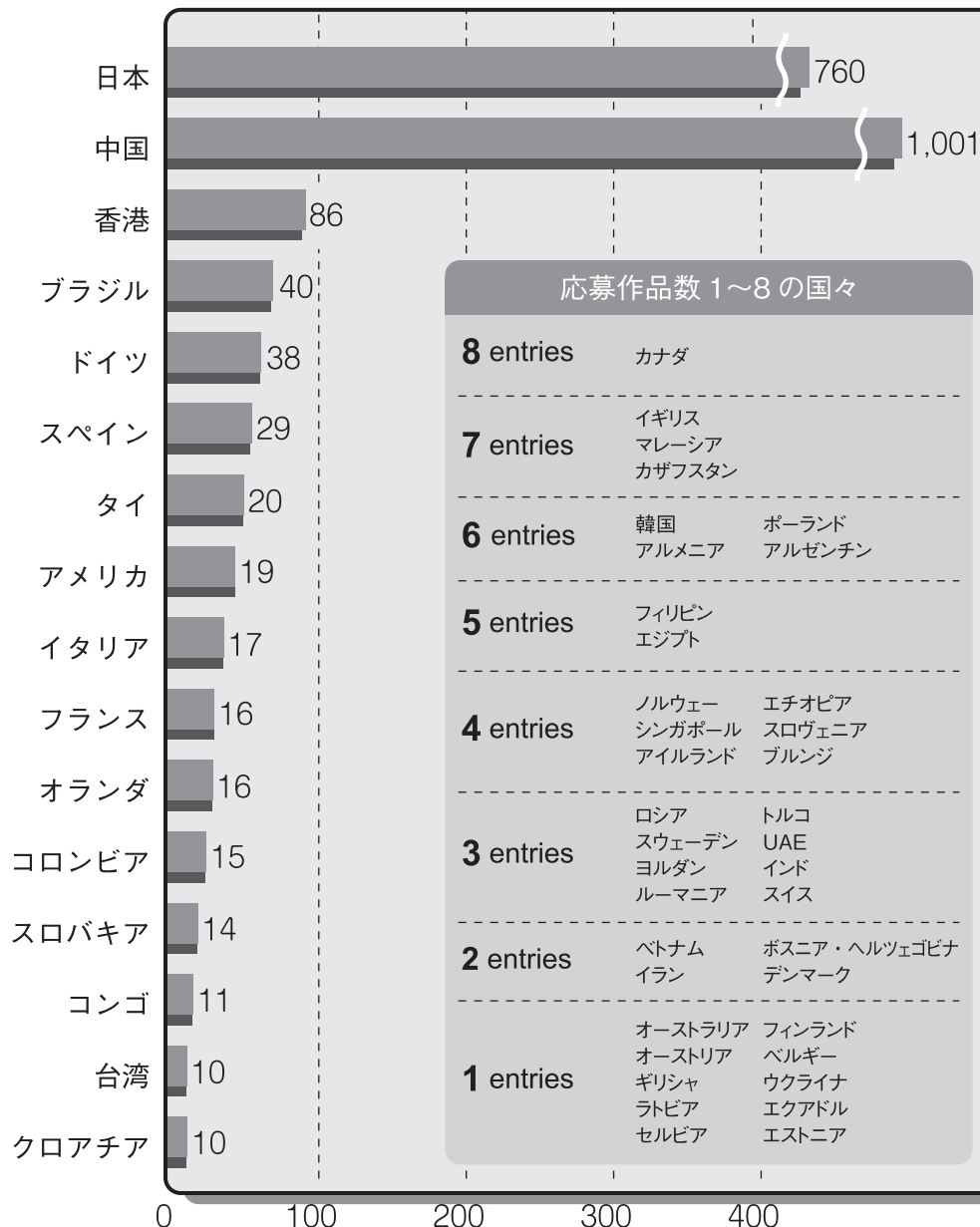
作品分野別(国内)



テーマ別(国内)

TVF2009応募作品の概要

国別応募内訳(総数:2,231作品 国内760/海外1,471)



TOKYO VIDEO FESTIVAL 歴代ビデオ大賞

1st 1979.3.29



走れ! 江ノ電
【18:12】
川崎市立御幸中学放送部
神奈川県

2nd 1979.11.15



BUBBLING
【20:00】
TomIyo Sasaki
アメリカ

3rd 1980.12.9



THIRD AVENUE
:ONLY THE STRONG SURVIVE
【15:00】
津野 敬子 & Jon Alpert
アメリカ

4th 1981.11.17



LIFE WITH RAY
【12:52】
Megan Robert & Raymond Ghirardo
アメリカ

5th 1982.11.18



わかれ
【19:58】
吉本 穆
東京都

6th 1983.11.24



LOVE OF LINE LIGHT AND SHADOW
:THE BROOKLYN BRIDGE
【10:24】
Reynold Weidenaar
アメリカ

7th 1984.11.17



道産馬の詩・道産馬と生きる馬追
【19:57】
渡邊 幸和
北海道

8th 1985.11.18



VIETNAM
:TALKING TO THE PEOPLE
【20:00】
Jon Alpert, Maryann De Leo & Quan Nguyen
アメリカ

9th 1986.11.17



VIDEO LETTER EXCHANGE
:LONGFELLOW FURZEDOWN
【13:50】
Larry Johnson & Elaine Wynne
アメリカ

10th 1987.11.16



A Bridge Over the Ocean
【20:00】
細見 勝典 / 原 勤 / Douna Boynton
神奈川県

11th 1988.11.21



ビデオ家庭訪問
【11:00】
山本 清志
愛知県

12th 1989.11.27



クールに包まれたあたたかさ
【08:10】
大塚 多喜子
愛媛県

13th 1990.11.26



スケッチブック三十路編
【17:47】
大畑 喜彦
鳥取県

14th 1991.11.25



破れ表紙の人生アルバム
【13:16】
河田 茂
広島県

15th 1992.11.30



韓国へ行った
【19:04】
太田 慎一
東京都

16th 1993.11.24



生き生きてポッポッポ
【19:59】
河田 茂
広島県

17th 1995.1.23



DOBŘE NAJEDENÍ RIDIČI BULDOZERŮ
Well-Fed Bulldozer's Drivers
【20:00】
Jan Ridl / Petr Prazak
チェコ

18th 1996.1.20



東京ハ、カユヒンダー
【09:15】
端野 俊丸
東京都

19th 1997.2.1



カラスなぜなく
【19:59】
河田 茂
広島県

20th 1998.1.24



LIFE OF CRIME
:DELERIS'S SAD STORY
【20:00】
Jon Alpert
アメリカ

21st 1999.2.6



ビデオに挑戦
【09:22】
高津 文子
愛媛県

22nd 2000.1.30



残された4000枚の絵
【20:00】
北海道札幌藻岩高等学校放送局
北海道

23rd 2001.2.3



天野川
【05:40】
川瀬 貴詠
滋賀県

24th 2002.3.21



ダムの水はいらん!
【20:00】
佐藤 亮一
熊本県

25th 2003.2.15



ROGO
【20:00】
福阿 典子
東京都

26th 2004.2.14



逆上がりができないの何でだろう?
【12:40】
石津 善久
愛媛県

27th 2005.2.19



つぶつぶのひび
【18:45】
大木 千恵子
茨城県

28th 2006.2.18



羽包む
【20:00】
中井 佐和子
奈良県

29th 2007.3.3



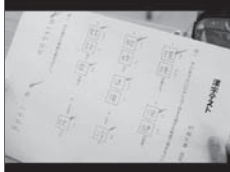
Plays the air.
【19:54】
内田 セイコ
大阪府

29th 2007.3.3



Fear no Evil
【19:56】
Guillermo Costanzo/Teresa Bo
アルゼンチン

29th 2007.3.3



漢字テストのふしぎ
【19:24】
長野県梓川高等学校 放送部
長野県

30th 2008.3.2



The Last Chapter
【20:00】
Makiko Ishihara
カナダ

30th 2008.3.2



いまどきの21歳の主張
【11:59】
黒川 優生
大阪府